

AIを活用した 「種ばれいしょ異常株検出支援システム」の開発

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：種ばれいしょ

技術の概要

種ばれいしょの安定供給を図る上で重要な工程である異常株の抜き取り作業をAIで支援するシステムを開発した。本システムでは、病害感染により生じたモザイク症状や萎れ症状などを、ほぼリアルタイムでAIが検出し、作業者に異常株の存在を知らせることで、これまで熟練者により時間をかけて判別していた作業を大幅に省力化することができる。作業の軽労化・技術継承により、わが国の基幹作物である、ばれいしょの種苗生産面積の回復や担い手不足解消へ貢献する。



種ばれいしょ生産者による
抜き取り作業



自動検出プログラムを搭載したほ場管理車両(異常株検出支援システム)

導入の留意点

・現時点では「トヨシロ」品種を検出対象

対象品種を「コナヒメ」「キタアカリ」に拡大。
国内で約5,000haの種ばれいしょの生産現場に普及予定。

効果

◎熟練者の抜き取り作業を学習し高い精度を実現

農研機構種苗管理センターの抜き取り作業に熟練した職員が教師データ作成を担うことで検出精度83%を達成した。

◎AIによる認識で6畦同時に異常株を検出

従来は、作業者が歩きながら2畦毎に目視判定していたが、本システムでは自走しながら最大6畦(作業効率3倍)の異常株を検出し、抜き取りのため追従している作業者に音と画像によって通知することにより、抜き取り作業全体の作業時間について慣行の50%減を実現する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●改良・普及状況

2024年度から原原種生産現場等への試験導入。システムの実用性や利便性向上を目的とした改良を進めており、2025年度に種ばれいしょ生産者による試験導入を予定。

関連情報

プレスリリース：(研究成果) AIを活用した
「ばれいしょ異常株検出支援システム」の開発



ジャガイモシストセンチュウ抵抗性 ばれいしょ品種「はるか」と「ピルカ」

問い合わせ先：農研機構本部

TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ばれいしょ

技術の概要

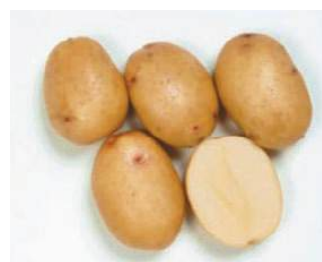
ばれいしょは重要害虫のジャガイモシストセンチュウの発生地が拡大する一方、業務加工用の需要が増加しており、加工適性が優れ線虫抵抗性を有する多収品種が求められている。

新品种「はるか」は、中生・多収で、目が浅く皮を剥きやすい。白肉色でサラダやコロッケ等の業務加工適性に優れる。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。

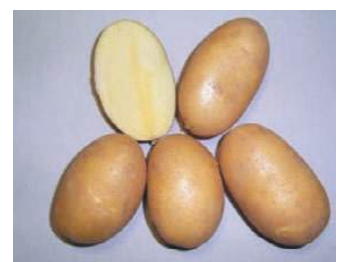
新品种「ピルカ」は、中早生・多収で、目が浅く皮を剥きやすい。黄肉色で煮崩れが少なく、水煮調理に適する。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。



ジャガイモシストセンチュウ(左)と根に寄生したシスト(右)



「はるか」



「ピルカ」

導入の留意点

・殺菌剤等の慣行防除は必要

疫病抵抗性は弱いため、殺菌剤等の慣行防除は必要である。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

・種ばれいしょ生産者価格：600円～800円／10kg

●普及の状況

・2019年の普及面積「はるか」120ha、「ピルカ」31ha

●適応地域

・北海道を主とした全国のばれいしょ栽培地帯

関連情報

はるか | 農研機構 (naro.go.jp)

ピルカ | 農研機構 (naro.go.jp)



効果

◎ジャガイモシストセンチュウ発生地拡大の防止 および殺線虫剤の削減

抵抗性品種を栽培することにより、発生地域では土壌中の線虫密度を低減、未発生地域では線虫の侵入を防止することができ、殺線虫剤の使用も削減できる。

◎いもの皮剥き工程の効率向上

目が浅く皮剥きしやすいため、業務加工時のトリミング作業の効率が上がり、皮剥き歩留まりも高い。

複合病虫害抵抗性のばれいしょ品種「ながさき黄金」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ばれいしょ

技術の概要

生食用ばれいしょは、でん粉原料や加工用に比べてジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及割合が低い。今後国内のばれいしょ産地を維持発展させるためには、実用性の高いジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及が不可欠である。

「ながさき黄金」（登録番号28235）は、食味評価の高い「インカのめざめ」を暖地向けに改良したカロテノイド高含量品種で、ジャガイモシストセンチュウ（Gr）およびジャガイモYウイルス（PVY）に抵抗性を有し、青枯病にも強い。「インカのめざめ」より多収で1個平均重が重く、二期作が可能である。

食味は「インカのめざめ」並みに良好で、暖地向け品種の中ではでん粉価が安定して高いので、油調理にも適する。



ながさき黄金の生塊茎と皮付きフレンチフライ

導入の留意点

・密植や多肥栽培を避け、適期収穫を行う

密植や多肥栽培による増収は望めない。透明マルチを用いた栽培では、掘り遅れると塊茎腐敗が増加する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況（長崎県）

栽培面積は、長崎県内で年間10ha程度。青果のほか加工用途でも出荷されている。種いもは長崎県産のみで県外にも出荷・販売されている。

●適応地域

関東以西の温暖地域

関連情報

ばれいしょ「ながさき黄金」栽培マニュアル
長崎県農林技術開発センタHPトップ マニュアル一覧



効果

◎殺線虫剤なしでシストセンチュウの拡大を防止

カップ検定によりシストを形成しないことが確認されており、「ながさき黄金」を栽培すると殺線虫剤を使用せずにGrの圃場密度低減と周辺への拡大を防止できる。

◎機能性や良食味を活かした高単価販売が可能

カロテノイド（ゼアキサンチン、ルテイン）を多く含む濃い黄色の肉色で、ほのかなナッツの香りと甘みがある。

病虫害抵抗性ばれいしょ品種「アイマサリ」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ばれいしょ

技術の概要

生食用ばれいしょは、でん粉原料や加工用に比べてジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及割合が低い。今後国内のばれいしょ産地を維持発展させるためには、実用性の高いジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の普及が不可欠である。

「アイマサリ」（登録番号28656）は、暖地二期作用の主力品種「ニシユタカ」並みに収量が多く、ジャガイモシストセンチュウ（Gr）およびジャガイモYウイルス（PVY）に抵抗性を有する生食用品種である。1個平均重が重く、早期肥大性がある。表皮は滑らかで光沢があり、目が浅く外観がすぐれている。

食味は「ニシユタカ」より舌ざわりが滑らかでポテトサラダにも適する。水煮による煮崩れは「ニシユタカ」に比べてしやすい。



アイマサリ

ニシユタカ

導入の留意点

・掘り遅れに注意し、早期販売を！

茎葉が黄変すると倒伏し、マルチ内の地温上昇により腐敗いもや青枯病が発生しやすくなる。休眠期間がやや短いので、早期販売がおすすめ。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況（長崎県）

栽培面積は、長崎県内で年間50ha～60ha。現在のところ、種いも生産量が長崎県内の需要量を満たしていないため、県外への種いも供給は数年後の見込み。

●適応地域

関東以西の温暖地域

関連情報

ばれいしょ「アイマサリ」栽培マニュアル
長崎県農林技術開発センタHPトップ マニュアル一覧



効果

◎殺線虫剤なしでシストセンチュウの拡大を防止

カップ検定によりシストを形成しないことが確認されており、「アイマサリ」を栽培するだけで「ニシユタカ」等より減収することなく、汚染圃場の密度低減と汚染拡大を防止できる。

◎早期出荷による有利販売が期待できる

西南暖地では、「ニシユタカ」より1週間程度早掘りでき、霜が降りにくい地域では、年内に植付けてマルチ栽培すると4月中に出荷することが可能であり、“新じゃが”として有利販売できる。

ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) の簡易検査キットの開発

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ウリ類

技術の概要

ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) による退緑黄化病は、早期に診断し対策を講じる必要があるものの、発生初期は生理障害との区別が困難である。

民間企業と共同で開発したイムノクロマトキットは、採取した葉を専用袋ですりつぶし、得られた液をスポイトで試験紙に垂らすだけで、高精度かつ短時間でCCYV感染の有無を判定できる。判定はラインの本数を見るだけであり、判定後、速やかに適切なウイルス病対策を行えるようになり、キュウリやメロンなどウリ類の安定生産に貢献できる。



CCYVによる退緑黄化病のキュウリ葉



開発した簡易検出キット「Agripalette®ウリ類退緑黄化ウイルス」

効果

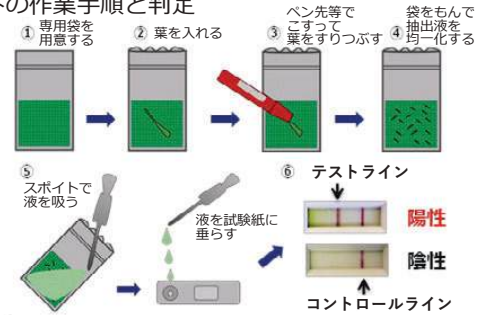
◎本検査キット1つでCCYVの検出が可能

キットには、試験紙本体と摩砕袋、スポイトが添付されている。専門的な機器や試薬は不要で、これ1つでCCYVの検出が可能。所用時間30分で、誰でもどこでも、迅速に判定できる。

◎迅速な診断により農薬削減に寄与

発生初期に迅速な診断を行い、陽性と判定された場合、ウイルス媒介虫を特定した適切な防除が可能となり、不必要な農薬の使用を回避することができる。また、速やかに発病株の除去（耕種的防除）も可能となる。

●キットの作業手順と判定



導入の留意点

・検体のサンプリングの部位と量に注意

使用する検体は、黄化葉よりも初期病徴の退緑葉の方が適している。検定量は、葉面積約2cm²を遵守すること。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯 約15,000円/10テスト（株式会社ファスマック、参考価格）
- 開発機関 株式会社ニッポン、茨城県農業総合センター
- 適応地域 全国



関連情報

茨城県農業総合センター主要成果（2024年）

- ①ウリ類退緑黄化ウイルスの簡易検出キットの開発と迅速診断
- ②多検体検定時に有効なウリ類退緑黄化ウイルスの簡易検出法



問い合わせ先：鹿児島県農業開発総合センター
TEL: 099-245-1114（研究企画課）

市販化

地域産低コスト資材を活用した新規土壌還元消毒法

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ピーマン、マメ類、サツマイモ苗床等

技術の概要

糖含有珪藻土を活用した土壌還元消毒法は、施設栽培において、かん水チューブを用いた方法が確立されている。

施設栽培で頭上スプリンクラー設備がある場合は、これを活用することで十分なかん水ができる。

露地マルチ栽培で応用する場合は、通路にもかん水することで還元能を高めることができる。



図 頭上スプリンクラーかん水の様子



図 畝内土壌還元消毒と通路かん水の様子

効果

◎脱化学農薬

糖含有珪藻土は、化学農薬に頼らない安心・安全な土壌還元消毒資材として有望である。

◎施設栽培で効果的なかん水方法

糖含有珪藻土の施用当日中に、頭上スプリンクラー等で土壌深層までかん水することで、ビニル被覆が翌日になっても同程度の還元能が維持できる。

◎露地マルチ栽培で活用するためのポイント

露地マルチ栽培では、畝内かん水に加えて通路かん水することで、より還元能が高まる。

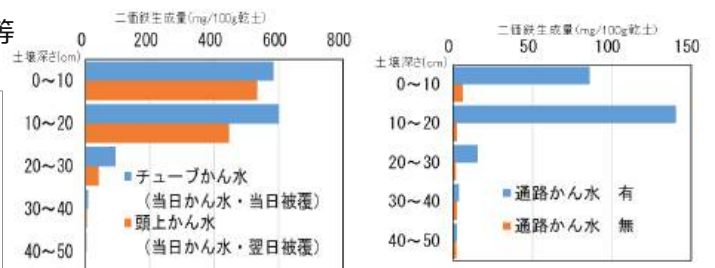


図 土壌還元消毒14日目土壌深さ別の二価鉄含量

注)糖含有珪藻土を10a当たり1t施用して耕耘し、チューブかん水は当日かん水して当日中にビニル被覆、頭上かん水は当日かん水して翌日にビニル被覆

図 通路かん水の有無と二価鉄生成量

注)通路部分のぬかるみが乾いたら、通路かん水（ほ場全面に10a当たり20t程度）を複数回実施する（開始から2週間程度）

導入の留意点

・土壌還元消毒の確認

ジビリジル反応により土壌が赤くなることで確認する。



その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 株式会社サナスが取り扱う糖含有珪藻土は、九州・沖縄のみの販売となっている（令和6年11月時点）

関連情報

- ①令和3年度普及に移す研究成果（鹿児島県農業開発総合センター）
- ②令和4年度普及に移す研究成果（鹿児島県農業開発総合センター）



白黒ダブル生分解性マルチによる
スイートコーン抑制栽培の初期生育改善および省力化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(脱プラスチック)

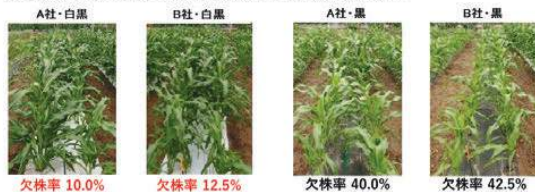
生産 品目：スイートコーン（抑制栽培）

技術の概要

スイートコーンの抑制栽培は、端境期の秋に出荷するため、高単価が期待される。一方、生育初期が真夏の高温期にあたるため、初期生育の不良が課題となる。また、台風に耐える根張りの強い品種を使うことから、収穫後のポリビニールマルチの剥ぎ取りに大きな労力が掛かる。

その対策として、地温上昇抑制効果のある白黒ダブルタイプの生分解性マルチを本作型へ導入することにより、発芽率の向上と初期生育の改善により欠株率が低く抑えられ、十分な収量が得られる。また、ポリマルチと比べて、片付けにかかる時間を大幅に短縮することができ、農業分野における廃プラスチック対策への一助となる。

生分解性マルチの色の違いが初期生育に及ぼす影響



欠株率 10.0% 欠株率 12.5% 欠株率 40.0% 欠株率 42.5%

効果

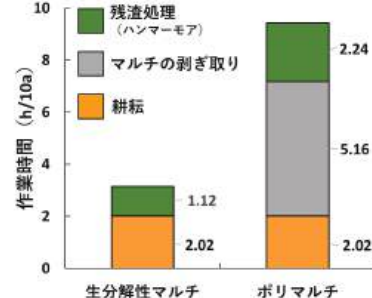
◎地温上昇の抑制により、初期生育が改善

白黒ダブル生分解性マルチを導入することで、地温上昇の抑制による発芽率向上と初期生育の改善により、欠株率が30%程度低く抑えられ、安定生産に繋がる。

◎片付けの作業時間が大幅に軽減

生分解性マルチを導入することで、マルチ剥ぎ取りの省略等で、10aあたりの作業時間を約6.3時間低減することができる。

片付け作業時間の比較



※ポリマルチの場合、マルチを剥ぎ取りやすくするため、残渣の粉碎が2回必要



導入の留意点

・栽培中は、土壌の極端な過干・過湿に注意

干ばつと大雨のリスクが高い作型であるため、適正な土壌水分状態が保たれるよう注意して栽培管理を行う。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

白黒ダブルの生分解性マルチの価格は、一般的なポリマルチの2.5～3倍（仕入れのロット数等により変動）。

●改良・普及状況

令和6年度のスイートコーン抑制栽培から、栽培実証による技術の普及が始まっている。

※本研究は、生研支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業（課題番号01029C）の支援を受けて実施した。

関連情報

山梨県総合農業技術センターホームページ
「令和5年成果情報」



アップカット畝立マルチ播種機による
省力的播種技術

問い合わせ先：秋田県農業試験場企画経営室 企画経営室長
TEL:018-881-3312 (企画班)

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：エダマメ、豆類

技術の概要

播種が低温時に行われる早生エダマメ栽培では、出芽を安定させるため有孔マルチを用いる。この播種作業は、手作業で行われることから、身体への負担も大きく、さらに作業能率が低い。そのため、複数作業を同時に行える高効率な機械播種技術を開発した。

開発した播種機は、耕うん・畝立て・マルチ展開・播種の複数同時作業を高効率に実施でき、投下労働量（＝作業人数×作業時間）の削減と省力化が図られ、生産性が向上する。



効果

◎播種に関わる複数作業を効率的に実施可能

耕うん・畝立て・マルチ展開・播種の同時作業が可能であり、アップカットロータリを用いることで、碎土率の高い畝を1行程で2畝同時に形成できる。

◎投下労働量を手作業と比べて大幅に削減可能

開発機を用いた播種作業の投下労働量は、9.1人・h/10a（≒3人・3.0h/10a）であり、手作業の19.5人・h/10a（≒6人・3.3h/10a）に比べて、作業人数を3人削減し、投下労働量を53%削減できる。高効率な播種作業により、作付面積の拡大に寄与できる。

●開発したアップカット畝立てマルチ播種機

本播種機は、アップカットロータリ（2畝立て爪配列）、成型器、播種機（傾斜目皿式、傾斜ベルト式）、マルチ展張器で構成され、トラクタ（40馬力～50馬力）に装着し、碎土率の高い畝を1行程で2畝同時に形成できる。また、畝の碎土率が高いため、出芽に十分な播種精度が得られる。



導入の留意点

・栽植密度に留意して有孔マルチを選定

栽培地域の実情にあった適切な栽植密度になるように、有孔マルチの寸法（株間等）を選定し、播種粒数にも留意する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯 265万円～308万円（税込み、トラクタ別）

ヤンマーアグリジャパン（株）東北支社（EM160-MLCH型）
（株）クボタ（MW2-150型）

●普及の状況 秋田県内に5台導入

●適応地域 全国のえだまめ栽培地域

関連情報

・最新農業技術・品種2021 アップカット畝立マルチ播種機による早生エダマメの省力的播種技術



落葉病抵抗性アズキ新品種「エリモ167」

温室効果ガス

農薬

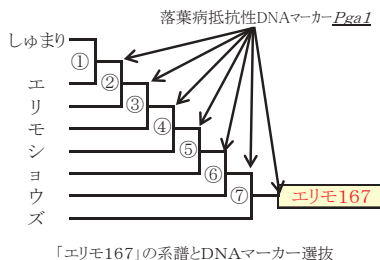
肥料

有機農業

生産 品目：アズキ

技術の概要

「エリモショウス」は小豆の主産地である北海道の基幹品種で、加工適性が優れ、実需者から支持されてきた。しかし、土壌病害である落葉病に弱く、発生畑での栽培が困難で、近年栽培面積、生産量が減少してきている。



「エリモ167」の系譜とDNAマーカー選抜

そこで、落葉病抵抗性遺伝子マーカー（*Pga1*）を用いた反復戻し交配により、農業特性や加工適性が「エリモショウス」と同等である落葉病抵抗性品種「エリモ167」を育成した。

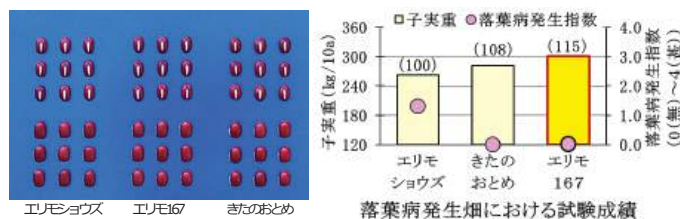
効果

◎4年輪作が可能

「エリモショウス」は、土壌病害抵抗性がないため輪作年限を長く（7年～8年）とる必要があるが、「エリモ167」は4年輪作が可能である。

◎落葉病の有無にかかわらず栽培できる

落葉病の発生畑でも「エリモショウス」の加工適性を有する「エリモ167」を栽培できる。畑ごとに品種を分けて栽培する必要がない。



導入の留意点

- ・落葉病抵抗性を持つが、適正な輪作を守る。
連作や短期輪作はせず、4年以上の適正な輪作を守る。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 改良・普及の状況（北海道）
2021年現在で3,029haの作付面積となっている。
- 適応地域
早生種栽培地帯（道東地域等の一部）を除く北海道全域。

関連情報

最新農業技術・品種2018「落葉病抵抗性を付けた「エリモショウス」、アズキ新品種「エリモ167」」



倒伏に強く多収のインゲンマメ（金時類）新品種「秋晴れ」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：インゲンマメ

技術の概要

北海道のいんげんまめ作付面積（6,340 ha、2019年）のうち、金時類はその約70%を占め、秋まき小麦の前作物として栽培される等、輪作体系上重要な作物であり、その生産物は主に煮豆原料として消費されている。

近年、台風等による気象被害の事例が増えており、金時類の主要栽培品種である「大正金時」の栽培特性の向上が強く求められている。「秋晴れ」は病害抵抗性に優れる上、倒伏に強く収量性に優れることで、金時類の生産安定化が可能となる。



煮豆製品の外観比較
(左:「秋晴れ」、右:「大正金時」)

効果

◎インゲンマメ黄化病による収量減少リスクの回避

アブラムシ伝染で引き起こされるインゲンマメ黄化病（葉の黄化および着莢数の減少被害を引き起こす）に抵抗性を有するため、収量減少リスクを回避できる。

◎優れた栽培特性で金時類の生産量を安定化

金時類の主要栽培品種である「大正金時」と比べ、栽培時の倒伏に強く収量性に優れる（+10%）ため、生産量の安定化が可能となる。

◎安定した煮豆加工特性

「大正金時」と同等の煮豆加工特性を有する。

●「秋晴れ」のインゲンマメ黄化病抵抗性

同病害は葉の黄化により、着莢数の減少や種子の肥大不足が引き起こされるため、生産上大きな問題となる。

「秋晴れ」は抵抗性を有するため、農薬散布の軽減が期待されている。



インゲンマメ黄化病の発病比較
左:「大正金時」、右:「秋晴れ」

導入の留意点

- ・インゲンマメ黄化病以外は既存品種並の抵抗性
インゲンマメ黄化病以外の病害については、既存品種並の抵抗性であるため、栽培時は適切な防除が必要である。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及の状況（北海道）
 - ・一般栽培に向けた試験栽培を、複数地域で実施している。
 - ・種子増殖が進められており、2024年に一般栽培開始予定。
- 適応地域
 - ・北海道のインゲンマメ栽培地帯（道東、道央地域）

関連情報

- ・平成31年農業新技術発表会要旨
倒れずにたくさん穫れる！
早生金時「秋晴れ」（十育B84号）



トンネルを活用した落花生の乾燥方法

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(気候変動への対応)

生産 品目：落花生

技術の概要

収穫した落花生は子実を乾燥させるため、ほ場で天日干しするのが一般的である。しかし、近年、秋の収穫期に長雨や豪雨が頻発し、乾燥中の莢にカビが生じることが問題となっている。

トンネル乾燥は降雨の影響を受けずに子実を乾燥できる技術である。収穫後3日間～7日間地干しを行った後、降雨前にマルチを敷設して莢が内側になるように積み重ねる。トンネルの支柱は60cm間隔で設置し、古ビニールで覆った後、マイカー線で固定する。裾は20cm程度開けておく。2週間程度の乾燥で、従来の乾燥方法（野積み）と同等の品質の子実が得られる。



効果

◎ 2週間で子実水分が十分に低下

トンネル乾燥は、野積み乾燥よりも子実水分が早く低下するため、収穫12日後～16日後で水分が10%以下となる。

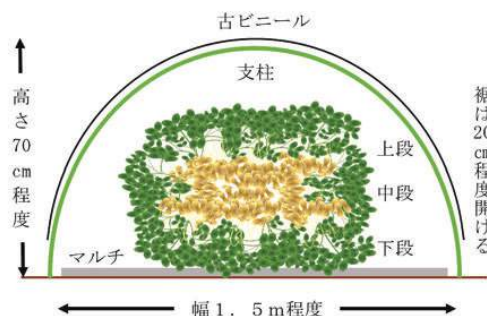
◎ 子実の品質は従来の乾燥方法と同等

トンネル乾燥させた子実のショ糖含量や発芽能力は、従来の乾燥法で得られた子実と同等である。

◎ 作業時間は従来法と同程度

トンネル設置に係る作業時間は、野積みと同程度である。

● トンネル乾燥の模式図



導入の留意点

- ・内部温度の過度な上昇や雨の吹込みを防ぐため、気象条件に応じてトンネルの裾の開け幅を調節する
- ・10月中旬以降は気温低下や降雨の影響でトンネル内部が結露し、子実水分が上昇するため、トンネル乾燥後は脱炭し、風通しの良い場所で室内乾燥を3週間程度行う

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

● 適応地域

落花生の栽培地。千葉県内では普及しつつある。

関連情報

- ・千葉県試験研究成果普及情報(平成30年度)
「落花生採種栽培におけるトンネルを活用した収穫物乾燥技術」



問い合わせ先：国際農研 情報広報室
e-mail: koho-jircas@ml.affrc.go.jp

市販化

低コストでの高バイオマス生産が可能な エリアンサス品種「JES1」と「JEC1」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：エリアンサス

技術の概要

温室効果ガス排出削減のため、再生可能エネルギーの一つとして、資源作物から作られるバイオマス燃料が注目されている。国際農研と農研機構が共同で育成した世界初のエリアンサス品種「JES1」と「JEC1」は、遊休農地等を利用した低コストでの高バイオマス生産が可能であり、バイオマスペレット燃料等の原料として利用できる。



エリアンサス品種「JES1」、「JEC1」の草姿
(熊本県合志市)



「JES1」を原料とする
ペレット燃料

「JES1」と「JEC1」の諸形質(熊本県合志市)

特性	JES1	JEC1
乾物収量 (t/ha)	32.2	31.6
茎数 (本/ha)	477700	475100
草丈 (cm)	396	418
稈径 (mm)	14.2	14.8
乾物率 (%)	39.1	42.6
灰分含量 (%)	7.3	7.7

既存のバイオマス作物と比べて多い



生産圃場における飼料用収穫機での収穫の様子(栃木県さくら市)

導入の留意点

・ 雑草化に留意が必要

11月の平均気温が18℃以上となる小笠原・南西諸島では、種子が稔実し、雑草化の危険性が高いため栽培しない。

・ 冬に収穫することで低水分含量での収穫が可能

立毛乾燥する1月～4月に収穫すると含水率が30%以下となりペレット（含水率10%以下）への加工が容易となる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及の状況：栃木県さくら市において、耕作放棄地における事業規模栽培（8 ha）が行われており、収穫物をペレット化し、温泉施設のボイラーで使用している。

- 適応地域：東北南部の低標高地から九州までの非積雪地。

関連情報

- ・ 資源作物「エリアンサス」を原料とする地域自給燃料の実用化



効果

◎ 株出し栽培での低コストなバイオマス生産

一度植え付ければ5年以上続けて株出し栽培ができるため、低コストでの高バイオマス生産が可能であり、九州では年間約30t/haの乾物収量が得られる。遊休農地等で栽培することにより食料生産との競合を避けることができる。

◎ 木質ペレットと同品質のペレット燃料生産が可能

エリアンサスに木質バイオマス50%混合することで木質ペレットと同品質のペレット燃料の生産ができる。

3.露地野菜

地温情報を組み入れた 畝立後太陽熱土壌消毒「陽熱プラス」

問い合わせ先：農研機構本部
TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜

技術の概要

太陽熱土壌消毒（従来型）は、地表をフィルムで被覆し、太陽エネルギーで地温を高め、土壌中の病害虫の発生を抑制する、臭化メチル代替技術のひとつ。従来型の作業手順を見直し、消毒処理後の土壌混和を防ぐことで防除効果を高めた畝立後消毒を基に、病害虫対策はもちろんのこと、消毒効果や養分供給効果の見える化、生物相への影響評価を組み入れた圃場管理を実現する技術「陽熱プラス」を開発した。

太陽熱土壌消毒法の作業手順



効果

◎地温の計測と消毒効果

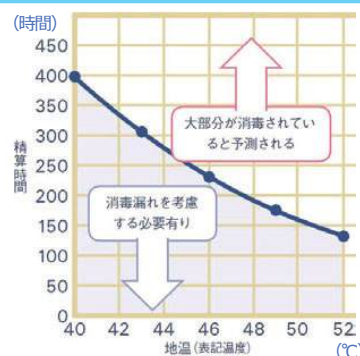
太陽熱土壌消毒期間の積算地温を現場で計測し、消毒効果を判断する（地温計を設置できない場合は近隣のアメダスデータ等を用いて可能な範囲で推定）。

畝立後消毒では、消毒前に施肥する必要があることから、太陽熱消毒の高地温条件が、施用した有機質資材・肥料、肥効調節型肥料の分解に及ぼす影響を評価した。

また、積算地温を目安とする判断根拠を設定することで、土壌病原菌の消毒効果だけでなく、土壌からの窒素無機化量の変動を評価できることを示した。



マニュアル表紙



積算温度と消毒効果の関係

導入の留意点

・汚染土壌の混入を避ける管理作業を徹底

消毒処理後は土を動かさないようにするとともに、消毒効果が劣るとされるハウス内の外周部をきれいに整地する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

宮崎県等西南暖地で太陽熱土壌消毒を実施する施設園芸生産地帯(111ha)、和歌山県南部地域等実エンドウの省力化栽培を目指す地域(5ha)等

●適応地域

消毒に必要な地温が確保可能な西南暖地が主体

関連情報

・陽熱プラス実践マニュアル（（国研）農研機構中央農業研究センター（平成27年））



問い合わせ先：農研機構本部
TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

土づくりと減肥のための緑肥利用マニュアル

生産 品目：野菜

技術の概要

圃場への堆肥投入が減少していること等から、土づくりへの関心が高まっている。また、化学肥料の価格は高止まりして生産コストを押し上げている。緑肥は、施用労力や輸送コストの面で有利な有機物で、古くから肥料として栽培されていることを踏まえ、緑肥の導入による土づくりや減肥の方法を取りまとめた。

緑肥の効果は、作物種やすき込み時期によって異なる。そこで、緑肥ごとに、土づくりの効果*、化学肥料代替の効果を定量的に示した。

*堆肥に換算して定量化
ソルガムは1kg/10a相当、ベツチは0.3kg/10a相当など、土づくり効果が違う例を掲載



緑肥ソルガムと同量の有機物を土壌に蓄積させるのに必要な牛ふん堆肥の量

効果

◎有機物の補給などによる土づくり

緑肥の種類、すき込み時期に応じて、堆肥に換算した土壌への有機物蓄積効果を示している。土壌の団粒化、下層土の硬度や透水性への効果も認められている。

◎減肥

緑肥の種類、すき込み時期に応じて、次の作物の収量を落とさずに、どのくらい減肥できるのかを示している。

◎所得への効果

各地への導入事例について、所得への効果を試算。

●栽培マニュアルの表紙と緑肥の導入体系の一例



ソルガム、エンバク、ライムギ、ヘアリーベッチ、クロタリヤを緑肥として各地に導入し、所得を増やしつつ、土づくりと主作物の減肥栽培を行う技術を紹介。

導入の留意点

・緑肥の種類、すき込み時期などによっては収量減

ねらいとする導入効果をもち、適期に栽培できる緑肥を選ぶ。主作物や周辺の作物の病害虫を増やさない緑肥とする。すき込み時期の遅れによる作業性（緑肥すき込みと主作物の播種）の悪化や野良生えの発生、主作物の窒素飢餓に注意する。腐熟期間が不足すると主作物に植え傷みが起きる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●適応地域

マニュアルの導入事例に示された地域に限らず、主作物を栽培しない期間が一定程度ある野菜産地などで適応可能。

関連情報

・緑肥利用マニュアル -土づくりと減肥を目指して-（（国研）農研機構（2020年））



生分解性マルチの導入

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(脱プラスチック)

生産 品目：野菜

技術の概要

マルチ栽培体系では、ポリエチレンマルチが主に使用されているが、生分解性マルチは、作物生育期には通常のポリマルチと同様の機能を有しつつ、収穫後に土壤中にすき込むと、土壤中の微生物により最終的に水と二酸化炭素に分解する生分解性プラスチックを用いた資材。

生分解性マルチは土壤中の微生物により分解されるため、作物残渣と一緒にすき込むことが可能で、作物収穫後のマルチのはぎ取り・回収作業が不要となり、廃プラスチックの排出抑制に貢献する他、バイオマス由来の生分解性プラスチックを用いた製品では、カーボンニュートラルにより温室効果ガスの削減にも寄与する。



効果

◎作物収穫後のマルチの回収作業がなく省力化

生分解性マルチは土壤中の微生物により分解されるため、作物残渣と一緒にすき込みでき、作物収穫後ののはぎ取り・回収作業が不要（省力化）

◎廃プラスチックの排出抑制

生分解性マルチは使用後の廃プラスチック処理が不要で、プラスチックの排出抑制に貢献

◎産業廃棄物としての処理費用が不要

生分解性マルチは土壤中の微生物により分解されるため、使用後の処理費用が不要

●生分解性マルチの導入

マルチ栽培技術自体は慣行栽培でも導入されているが、栽培管理をより省力化する1つの手段として「生分解性マルチの導入」が注目されている。

マルチはぎ取り前に作物残渣の処理等が必要な作物等で導入が進んでいる。



導入の留意点

・生分解性マルチの適正な処理

使用後の生分解性マルチが周辺に飛散することのないように、収穫後は速やかに土壤中にしっかりとすき込む。

・生分解性マルチの適正な利用

農薬や除草剤などの影響により急速に分解が促進される場合があり、特に土壌消毒剤の使用時には注意が必要。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

生分解性マルチ資材費 2万円前後（10a当たり）

関連情報

「生分解性マルチの活用事例
(H31.2：農林水産省生産局)」



問い合わせ先：山梨県総合農業技術センター環境部
TEL:0551-28-2987 e-mail:mochizuki-akby@pref.yamanashi.lg.jp

公開

マルチ下局所施肥を中心とした施肥改善

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜

技術の概要

温室効果ガスの一つである N_2O は、土壤中の窒素に降雨が影響することで大量に発生する性質を持っている。マルチ下局所施肥は降雨が直接影響する通路への施肥を行わず、マルチ被覆により栽培期間を通じて急激な土壌水分の変化が緩和されるため、 N_2O 発生量を大幅に削減することができる。併せて、速効性肥料と緩効性肥料の組み合わせにより施肥窒素利用効率が改善することで、余剰な窒素の発生が抑えられ、 N_2O 発生量削減効果がさらに向上する。

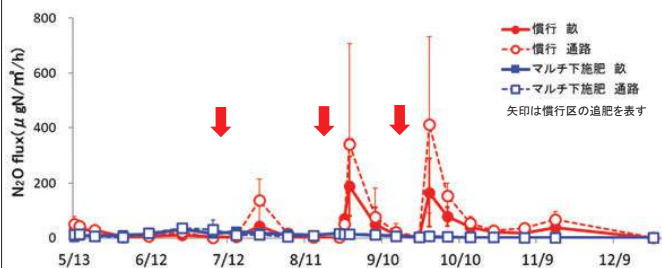


図1 マルチ下局所施肥と全面施肥における N_2O 発生量の比較

効果

◎畑土壌由来の N_2O 発生量を大幅に削減

N_2O 発生量を慣行の1/2～1/4に削減できる
(対象作型や気象条件により変動)

◎収量を維持しつつ労力・コストを低減

追肥にかかる労力と施肥コストを低減できる



N_2O 発生量測定の様子（山梨県総合農業技術センター）

導入の留意点

・山梨県成果情報に示されている以外の新たな作型にマルチ下局所施肥を導入する場合は、あらかじめ肥料の最適な組み合わせを検討する必要がある。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

マルチ下局所施肥は、農作業の省力化と肥料コスト低減に寄与できる技術であるため、山梨県内で広く普及しつつある。本技術の導入により、農家に負担をかけることなく温室効果ガス削減に貢献することができる。

●適応地域

各地域・作型に適する肥料の組み合わせを開発できれば、いずれの地域でも技術の適応が可能である。

関連情報

山梨県総合農業技術センターホームページ
「平成28年成果情報」



リン酸過剰ほ場における長期的なリン酸減肥指針

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜

技術の概要

リン酸過剰ほ場でリン酸無施肥栽培を10年間継続し、可給態リン酸の長期的な推移を把握する。また、リン酸無施肥栽培が可能な可給態リン酸の値を作物別に調査することで、リン酸無施肥栽培の継続可能期間を明らかにした。

土壌の可給態リン酸は時間経過とともに減少速度が低下し、適正值まで減少するのに長い期間を要する。またリン酸無施肥栽培に対する応答は作物・作型別に異なり、リン酸減肥により減収しにくいタイプの作物では、数年単位でリン酸無施肥栽培が可能である。

褐色低地土でリン酸無施肥栽培が可能な可給態リン酸値							
作物・作型	土壌の可給態リン酸(mg/100g)						
	10~20	20~30	30~40	40~50	50~60	60~70	70~80
ハクサイ	■	■	■	■	■	■	■
ブロッコリー	■	■	■	■	■	■	■
エダマメ	■	■	■	■	■	■	■
ナゾナ	■	■	■	■	■	■	■
スイートコーン(露地)	■	■	■	■	■	■	■
スイートコーン(トンネル)	■	■	■	■	■	■	■
御膳ナス	■	■	■	■	■	■	■
パレイショ	■	■	■	■	■	■	■
タマネギ	■	■	■	■	■	■	■

■ 増肥が必要

■ 通常量

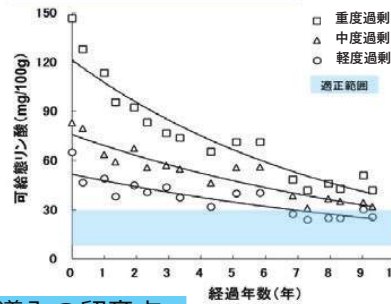
■ 無施肥

※図表は褐色低地土に関するものであり、黒ボク土についての図表は関連情報を参照。

リン酸無施肥栽培の継続可能期間(一覧表)

作物・作型	可給態リン酸の初期値(mg/100g)	継続可能期間(年)
ハクサイ	60	80
ブロッコリー	80	150
エダマメ	3年	7年
ナズナ	3年	7年
スイートコーン(露地)	1年	4年
スイートコーン(トンネル)	1年	4年
御膳ナス	1年	4年
パレイショ	2年	5年
タマネギ	1年	4年

可給態リン酸の長期的推移



リン酸無施肥栽培の開始初期は急速に減少

<原因>
①降雨による流出
②土壌への吸着
③作物のぜいいたく吸収

時間の経過に従い、減少速度が低下

適正值まで低下するのに長い期間がかかる

導入の留意点

- ・最初に土壌診断により可給態リン酸の値を把握
可給態リン酸の現況値を把握し、一覧表の該当する作物の欄と照らし合わせて、リン酸施肥の有無を決定する。

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

- 改良・普及の状況
当指針は、山梨県において既に技術普及が始まっており、山梨県施肥指導基準に掲載予定。
- 適応地域
指針策定のための栽培試験は褐色低地土と黒ボク土で実施したため、これらの土壌が分布する地域では適応が可能。

関連情報

山梨県総合農業技術センターホームページ
「令和2年成果情報」



問い合わせ先：愛知県農業総合試験場研究戦略部
TEL:0561-62-0085 e-mail:nososi@pref.aichi.lg.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他(労働生産性)

露地野菜の収穫作業における肉体的な負担軽減のための農業用アシストスーツ

生産 品目：露地野菜

技術の概要

露地野菜の収穫において、農業者は中腰姿勢や深くかがむ・ひねるなど腰への負担が大きい作業を長時間に渡って実施しなければならない。

(株)ジェイテクトとの共同研究により開発した農業用アシストスーツ「J-PAS Agri~®」は、アクティブ(モーター)タイプで、本体重量約2kgの業界最軽量クラスである。充電式のリチウムイオン電池を用いて、深くかがむ・ひねるなどの動きに対し、モーターがベルトを巻き上げることで腰の負担を軽減する。また、中腰姿勢の保持に適したノーマルモードと荷の持ち上げに適したターボモードを有し、様々な農作業をアシスト可能である。



効果

◎収穫時の腰の負担を軽減

「J-PAS Agri~®」あり・なしで腰の自覚疲労度調査を実施して効果を確認。
※被験者：露地野菜担当職員のパ9名

▶定性評価

	あり	なし
1.8		3.0

※腰に対する自覚疲労度
0:なし、1:わずかに感じる、2:かなり感じる、3:強く感じる

▶定量評価 作業効率(個/分)

経過時間	あり	なし
1~20分	10.5	10.6
21~40分	10.8	10.4
41~60分	11.1	10.7

◎作業効率の維持に貢献

キャベツの収穫作業において、装着による作業効率への悪影響なし。特に作業後半において、疲れによる作業効率低下が抑制される傾向あり。
※被験者：露地野菜担当職員のパ4名

●アシストスーツとは

- ・作業時の身体負担を軽減する着用物
- ・本技術はアシスト方式がアクティブ、フレームなしのもの

アシスト方式	アクティブ(モーター)		必要時だけ		パッシブ(ばね等)		常時アシスト
	なし	保持	あり	持上/下	なし	保持	あり
アシスト部位	J社		J社		M社		I社
	A社		S社		D社		D社

導入の留意点

・導入効果の大きい作業

右の表のような作業で負担が軽減されるため、導入前に作業内容を確認する必要がある。



その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

- 価格：本体(装具・電池込み) 29万8千円(税抜)
- 稼働時間：4時間 ●耐用：3年 ※2023年8月時点

関連情報

・J-PAS Agri~®
(株)ジェイテクト



・あいち農業イノベーションプロジェクト



可給態窒素診断のICT化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：露地野菜

技術の概要

土壌からの窒素発現は地温等の環境条件によって変動するため、地域や作型、可給態窒素レベルによって作物に供給される窒素量が異なる。そこで、地域や作型を選択するとともに、生産者自らが測定した圃場毎の可給態窒素値を入力することで、土壌から供給される窒素量が推定され、可給態窒素レベルに応じた窒素施肥量を自動計算するシートを開発した。

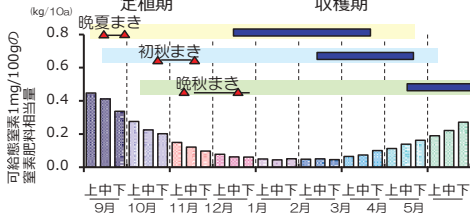


図 計算シート(バックちゃん)で求めたキャベツ畑の窒素発現パターン例

効果

◎土づくりや窒素減肥の目安がわかる

可給態窒素を把握することで、有機物施用計画や、30%減肥レベルが推定可能。



図 可給態窒素レベルと窒素施肥対応

◎WEB上で目標収量確保のための窒素施肥量がわかる

Web上の地図で地域を選択し、迅速測定法で得た可給態窒素を入力することで、目標収量の安定確保のための窒素施肥量がわかる。



(日本土壌インベントリー)



図 畑土壌由来の可給態窒素見える化アプリから（日本土壌インベントリー、土壌管理アプリ集）

導入の留意点

・圃場の一部で効果を確認してから導入

まず小区画で、窒素施肥量の増減が作物の生育、収量に及ぼす影響を確認してから導入を進める

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及対象 技術員及び露地野菜農家

関連情報

・野菜作における可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針作成のための手引き（2020年、農研機構）



・施肥窒素量算出シート「バックちゃん」は、鹿児島県農業開発総合センターウェブサイトからダウンロード可能



問い合わせ先：農研機構本部

TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化 / 開発中

AI-土壌図と土壌環境APIによる圃場管理

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜類、畑作物

技術の概要

圃場一筆ごとに肥料や有機質資材から供給される養分量を可視化するため、既存土壌図の問題点（低解像度、空白域など）を解消し、一筆ごとの土壌特性を確認できるAI-土壌図を開発した。また、AI-土壌図と気象データを組合せて土壌温度水分を予測し、緩効性肥料や有機質資材の「肥効見える化」する土壌環境APIを開発した。



効果

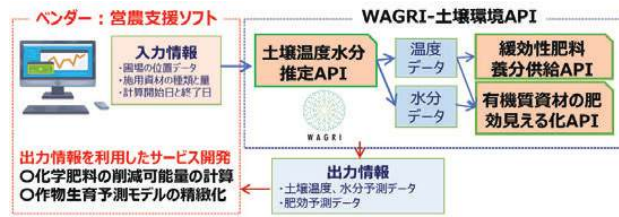
◎有機質資材の3成分の肥効を可視化

土壌環境APIでは11種類の有機質資材について3成分の肥効（窒素・リン酸・カリウム）を可視化可能。

◎有機質資材の利用で化学肥料使用量を削減

農研機構が熊本県で実施したレタス露地栽培に対する肥効見える化の実証試験で化学肥料使用量を54%削減。

●土壌環境APIの導入



生産者が有機質資材の種類や施用時期を民間営農支援ソフトに入力すると、土壌環境APIがAI-土壌図からの情報、温度、水分等に基づき肥効を算出し、化学肥料の低減可能量を提示。

導入の留意点

・有機質資材の肥効は変動することがある

有機質資材の肥効は土壌条件、地域、気候条件、その他の条件により変動することがある。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●利用者：主に営農支援システムを提供するベンダー

●価格帯：月額利用料：1万円（WAGRI有償API定額利用料を適用）

※利用にはWAGRI利用会員への加入が必要

●研究開発・改良

全国17道県で水稲を含めた9品目で実証試験を実施中

関連情報

WAGRIホームページ
土壌環境API掲載情報



有機質資材の肥効見える化API



有機質資材の肥効見える化アプリ

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜類、畑作物

技術の概要

簡単な入力作業により、有機質資材の窒素肥効を予測し、見える化するアプリを開発した。

堆肥等の有機質資材は、有機・減肥栽培や土壌への炭素蓄積にとって不可欠であるが、肥効の見積もりが難しいことが欠点。このアプリは、農研機構と国立環境研究所が共同開発した新しい数値モデルと、地温などの環境データや資材の特性値を使って、資材の窒素肥効（減肥可能量）を予測する。



●アクセスと操作

アプリのURL:
<https://soil-inventory.dc.affrc.go.jp/main/organic-fertilizer>

アプリへのQRコード



導入の留意点

- **水田のような湛水条件には非対応**
現在のモデルは畑地条件を想定して開発されている。
- **予測精度に限界あり**
降雨等の要因により精度が劣る場合があり、精度の向上に取り組んでいる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯
上記アプリの利用は無料
モデルの商業利用、特定資材用の高精度アプリは有料
- 適応地域
日本全国

関連情報

- 農研機構プレスリリース、2021年5月13日



効果

◎誰でも簡単に見える化

ネット接続があれば、資材の種類や施用時期などを数分間入力するだけで、窒素肥効を予測できる。

◎多様な作型に対応した予測

地温が異なる夏作、冬作など野菜類の多様な作型に対応できる。肥効の予測には農研機構日本土壌インベントリーの地温データを使っている。

◎有機質資材の利用促進と化学肥料の使用低減

見える化により、有機質資材の利用が容易になり、化学肥料の使用低減につながる。

野菜作における可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針作成のための手引き

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜

技術の概要

土壌の可給態窒素は、窒素肥沃度の指標と位置づけられており、適正な施肥を行うには、そのレベルに応じて窒素施肥量を加減する必要があるため、手引きを作成した。本手引きでは、各地域において畑土壌の可給態窒素レベルに応じた野菜の窒素施肥指針を作成するための考え方や手順を紹介している。

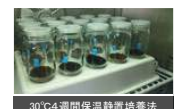
表 可給態窒素と施肥窒素の増減指針（鹿児島キャベツ作の事例）

作型	換算量 (kg/10a)	可給態窒素 (mg/100g) と窒素増減量 (kg/10a)	1	2	3(標準)	4	5
晩夏まき	2.1	+4.2	+2.1	±0	-2.1	-4.2	
初秋まき	0.8	+1.6	+0.8	±0	-0.8	-1.6	
晩秋まき	1.4	+2.8	+1.4	±0	-1.4	-2.8	

※可給態窒素3mg/100gを窒素施肥基準量とし、それ以上は減肥

●可給態窒素簡易迅速測定法の開発

畑土壌の可給態窒素は、従来は「30℃4週間保温静置培養法」で測定していたが、結果を得るまでに約1か月を要し、操作が煩雑であった。そこで、これを簡易迅速化した「80℃16時間水抽出-CODバックテスト判定法」として、短時間で特別な装置が不要な測定法を開発した。



測定法の簡易迅速化



導入の留意点

●栽培実証試験による精度向上が必要

可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針を作成する際には、必ず栽培実証を行い、実証結果をフィードバックしながら精度を高めていくことが大切。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 改良・普及の状況
2019年に、5県で野菜畑の窒素適正施肥技術の普及に活用。さらに、2021年から8県で新たに現地実証試験を計画。
- 可給態窒素簡易迅速測定法は、多くの県で採用され、さらなる改良法が提案されている。

関連情報

野菜作における可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針作成のための手引き



効果

◎適正施肥により収益性向上

土壌の可給態窒素レベルが高い場合には減肥により肥料費を削減。低い場合には有機物施用や増肥で収量・品質が向上。以上の結果、野菜生産者の収益性が向上。

◎環境保全に貢献

適正な窒素施肥量を把握し、過剰施肥を回避。温室効果ガスである一酸化二窒素発生や硝酸性窒素溶脱による地下水汚染を抑制。

◎土づくりにも活用

有機野菜生産における有機物施用等の土づくりを適正化。

秋冬作露地野菜の可給態窒素レベルに 応じた窒素施肥量の簡易算出法

問い合わせ先：鹿児島県農業開発総合センター
TEL:099-245-1114（研究企画課）

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：秋冬作露地野菜全般

技術の概要

速度論的窒素無機化量の予測法に基づき、全国各地の平均地温データから、栽培期間中の土壌無機化窒素量を予測し、窒素施肥量に換算する表計算シートを公表した。

露地野菜を栽培する地域、土壌の種類、施肥および収穫時期をリストから選択し、簡易法で測定した可給態窒素含量を入力することで適正な窒素施肥量が表示される。

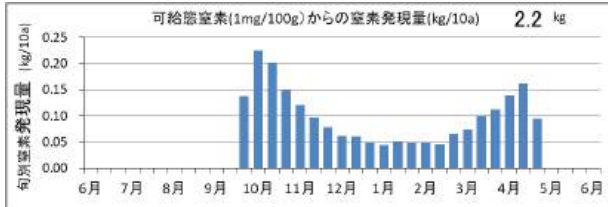


図1 栽培期間中における旬別窒素発現量を表示

効果

◎安定収量を確保

可給態窒素診断結果に基づいて窒素施肥量を加減することにより、安定した収量を確保。

◎無駄な施肥がなくなり、地下水等への負荷が軽減

作物が必要な量を施肥することで施肥効率が向上。

◎計画生産に貢献

生育が揃うため、大規模栽培において、計画的な生産が可能。

※1 地域名	九州・沖縄	黄色のセルだけ操作してください
※2 県名	鹿児島	
※3 土壌の種類	黒ボク土	
※4 施肥	10月	上旬
※4 収穫	翌年5月	上旬
※5 栽培期間の30℃換算日数は	98.2日	= 5.2週間
※6 窒素施肥基準	15 kg/10a	
※7 可給態窒素	4.5 mg/100g乾土	
※8 窒素発現量	9.8 kg/10a	
※9 可給態窒素 1mg/100g が窒素施肥	2.2 kg/10aに相当します	

計算シートの入力例

導入の留意点

- ・施肥窒素換算量は各地の平年値でシミュレート
- ・キャベツ、ハクサイ、ニンジン、ブロッコリー、レタス、若掘りゴボウで有効性を確認

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及対象農家 大規模露地野菜農家

関連情報

- ・畑土壌の可給態窒素簡易迅速評価法（2009年，農研機構）
- ・野菜作における可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針作成のための手引き（2020年，農研機構）
- ・施肥窒素量算出シートは鹿児島県農業開発総合センターウェブサイトからダウンロード可能



散水設備を持つ段差のある圃場への 拍動灌水システムの導入方法

問い合わせ先：農研機構本部
TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他（労働生産性）

生産 品目：野菜・果樹（露地）

技術の概要

散水設備を使用している棚田跡地などの段差のある圃場では、区画ごとにバルブの開閉で順次灌水を行う必要があり、この労力の軽減が求められている。また、従来の散水管による灌水では畝間にぬかるみが生じる場合がある。

本技術は段差のある圃場の散水設備を活かし、タンクに一定量の水がたまり灌水が行われる拍動灌水装置を利用した自動点滴かんがいシステムである。



圃場面が水平な棚田跡地など段差のある圃場の例。散水設備を持つ野菜農家で導入の効果が期待できる。

効果

◎灌水の自動化による省力化

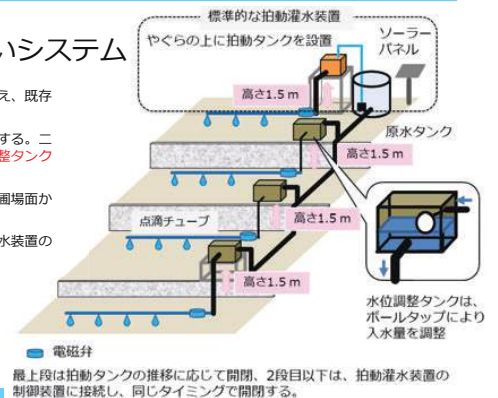
18a規模で、灌水作業の労働時間を年間約50時間削減した事例がある。特に、夏期の繁忙期の労力分散が図られ、管理作業の徹底による品質・収量の向上が期待できる。

◎点滴灌水の利用による減肥

点滴灌水では散水灌水や畝間灌水に比べて一般に肥料の利用効率が高く、減肥が可能。

●自動点滴かんがいシステム

1. 散水管を点滴チューブに置き換え、既存の配管はそのまま利用する。
2. 最上段は、拍動タンクから灌水する。二段目以降は1つ上の段の水位調整タンクから灌水する。
3. 水位調整タンクは灌水する段の圃場面から1.5m程度の高さにする。
4. 各段の電磁弁の開閉は、拍動灌水装置の制御装置まで一体的に行う。



導入の留意点

・場所に応じた設置条件の検討

規模、地形、水源、水圧、電源や既存の配管の有無などによって設置方法が異なる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

- ・段が4段、総圃場面積18aで設置した事例での導入費用は約60万円。システム稼働に商用電力のコストは不要。使い捨てチューブを使用する場合は毎年交換経費が必要。

●適用地域：全国（寒冷地では冬季には撤去・保管する）

関連情報

- ・“減肥を目指した”露地栽培への点滴かん水導入の手引き（（国研）農研機構 近畿中国四国農業研究センター、岩手県農業研究センター（平成26年））



AIを活用した病害虫の画像診断アプリ

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産

品目：野菜（イチゴ、トマト、キュウリ、ナス、ジャガイモ、タマネギ、ピーマン、カボチャ、ダイズ）
果樹（モモ、ブドウ）、花き（キク）

技術の概要

病害虫の迅速な診断には、経験や知識が必要である。しかし、地球温暖化による新規病害虫の発生、法人経営による非熟練作業者の増加等により、現場での迅速な識別が困難になっている。

そのため、AIを活用し、スマートフォン等を用いて農業現場で病害虫の診断を行い、速やかに効果的な防除ができるアプリを開発した。

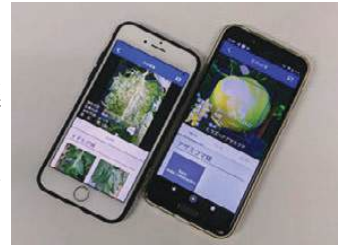


●アプリの概要

アプリ内のカメラ機能で撮影した画像や、あらかじめスマホ等で撮影した画像を用いて診断できる。

病害虫をスマホアプリで撮影すると、識別結果と使用可能な農薬の一覧が表示される。

※診断結果は履歴に残るので過去の記録も閲覧可能。



実際のアプリ画面

導入の留意点

・撮影条件により正答率が下がることに留意

撮影条件により正答率が下がる場合があるため、防除の参考として利用し、確定診断は都道府県の病害虫防除所等へ相談する。

効果

◎病害虫の適切な防除を行うための診断が可能

12品目中の内、先行して検証したトマト・キュウリ・イチゴ・ナスの4作目についての精度は、63病害虫のうち半分で9割以上の精度、大多数が8割以上で診断できる。

◎化学農薬使用量の低減による低コスト化

病害虫診断に基づく適切な化学農薬使用により、化学農薬使用量の低減が可能となり、低コスト化及び作業の軽労化が実現。

◎多様なサービスの展開

WAGRIよりWeb APIとして病害虫識別機能を提供することで、様々なアプリとの連携が可能となり、多様なサービスの展開が可能。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●4作目（イチゴ・トマト・キュウリ・ナス）は、開発した成果を活用したAI病害虫診断アプリが、日本農業株式会社から無償で公開されている。本アプリは、これまで約9万回ダウンロードされている。

●12作目対応WAGRI-APIは、WAGRI有償会員向け有料コンテンツとして公開中（2021年4月公開）。

関連情報

・レイミーのAI病害虫雑草診断

・病害虫診断API



AI等を活用した土壌病害発病ポテンシャルの診断技術の開発

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産

品目：野菜類、花き類

技術の概要

土壌消毒剤の使用量の低減には、ほ場単位で土壌病害の発生しやすさ（発病ポテンシャル）を診断し、診断結果に応じて対策手段を講じる土壌病害管理法（ヘソディム※）が有効である。

発病ポテンシャル診断は圃場条件によって方法が異なるため、AIで様々な圃場条件に応じて発病ポテンシャルを診断し、対策支援を可能とするアプリ（HeSo+：ヘソプラス）を開発した。HeSo+の活用により、多くの圃場でヘソディムが実践され、土壌消毒剤の使用量低減等により生産者の収益向上と環境負荷低減が期待できる。



「HeSo+」のトップ画面

※2012年に農研機構が開発。Health checkup based Soil-borne Disease Management（健康診断に基づく土壌病害管理）を略しHeSoDiM（ヘソディム）と命名

効果

◎土壌消毒剤の効率的利用の推進

土壌消毒剤の効率的利用により、低投入持続型農業の推進が図られ、野菜等の安定供給に貢献する。

◎生産者の収益性の向上

病害防除の低コスト化や効率化により、生産者の収益向上が図られる。

発病ポテンシャル診断のための入力画面例

診断項目の入力

- 1.土壌菌密度
○菌密度が 1×10^4 /g未満
○ 1×10^4 /g以上 5×10^4 /g未満
○ 5×10^4 /g以上
- 2.pH
pH
- 3.腐食含量(%)
%
- 4.近隣の自圃場での発病状況
○なし
○小
○中
○大
○甚大

戻る 診断

圃場の発病ポテンシャル診断結果の表示画面例



診断できる対象病害の種類と地域

病害	作物	AI診断の対象地域
根こぶ病	キャベツ ブロッコリー ナバナ	全国 関東
黒腐病	ネギ	関東、東海
黄化病	ハクサイ	関東以北
半身萎凋病	キク	
べと病	タマネギ	西日本
根茎腐敗病	ショウガ	西日本
青枯病	トマト	西日本
	ショウガ	西日本

導入の留意点

・HeSo+は対策の意思決定のツールとして活用

HeSo+で提示される診断結果や対策法を参考に、指導者と生産者が協議して対策の意思決定を行う必要がある

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

1利用者が5圃場未満で利用する場合、年間3,000円～（料金は利用者数と使用圃場数に応じて変動）

●改良・普及の状況

- ・2022年10月時点で計1000圃場数分の利用契約希望を受け付け
- ・新たな収集データを基に診断用のAIモデルを改良中

関連情報

利用申し込み先：HeSoDiM-AI普及推進協議会



混合有機質肥料を用いた土壌還元消毒

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜、花き

技術の概要

混合有機質肥料「ソイルファイン」(N-P₂O₅-K₂O：3-3-1)を土壌混和後、灌水し、ビニールで被覆することで土壌微生物を活性化させ、土壌の還元化を促す。この状態を30℃程度で約3週間維持すると、多くの土壌病害虫が死滅する。

ソイルファインは大麦発酵液由来原料を50%含有するため、灌水後、水溶性有機物が下層（最大60cm程度）まで到達しやすい利点がある(600～750kg/10a施用)。これにより表層～下層まで広範囲の消毒効果が期待できる。



米ぬか



大麦発酵液由来原料



ソイルファイン



水にソイルファインを添加した様子

効果

◎土壌還元消毒の資材散布量を低減

ソイルファインは、600～750kg/10a 施用でふすま 1t/10a と同等の酸化還元電位となることを確認。

◎土壌下層まで還元化を促進

ソイルファインは固形の有機物と水溶性の有機物を含むため、灌水することで資材の混和層だけでなく下層まで有機物が到達し還元化を促す。

◎次作基肥の減肥が可能

ソイルファインは混合有機質肥料であり、約3週間の土壌還元消毒期間中に約30%の窒素が無機化する（社内試験）。そのため次作の基肥は土壌還元消毒後の施肥指針等に準じて減肥を検討することができる（計算上は最大5.4kgN～6.75kgN/10aであるが、溶脱等を考慮し、適宜調節する）。



資材散布・耕うん



灌水チューブ設置



被覆・灌水

導入の留意点

・ソイルファイン自体に消毒効果はない

土壌還元消毒の消毒効果は土壌の還元化によるものであり、ソイルファインは土壌の還元化を促す有機質肥料である。

・土壌の消毒効果

嫌気性菌による病気など、病害虫によっては土壌還元消毒の効果が期待できないと考えられるため事前に確認する。

・土壌還元消毒の実施前に条件を確認

消毒期間（1ヵ月程度）を確保できる作型か。
灌水状態を維持できるか（水はけが良すぎる圃場でないか）。
地温30℃程度を維持できる地域・気象条件か。

・地温を維持するため施設での実施が適する

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及の状況：全国のJAで購入可（一部取扱いの無い店舗あり）
- 価格帯：ソイルファインは最寄りのJAへ要問合せ。
（目安：税込8～11万円/10a(600～750kg/10a)）※2024年11月時点
ほかに灌水チューブ(目安として2～8万円/10a)や土壌被覆資材等が必要。

関連情報

- ①ソイルファインによる土壌還元消毒技術トピックス
- ②片倉コープアグリチャンネル（YouTube）



5月どりダイコンのべたがけ栽培による農ビ削減

問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター東総野菜研究室
TEL:0479-57-4150

市販製品の利用

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：ダイコン

技術の概要

トンネル栽培では、低温で誘導された花芽分化を昼間の高温で打ち消す「脱春化」を起こさせるが、べたがけ栽培ではトンネル栽培ほど温度が上がらないため、抽台しやすくなる。そこで、べたがけ栽培に適した晩抽性品種として、「蒼の砦」（ナント種苗（株））と「トップランナー」（タキイ種苗（株））、昇温性の高いべたがけ資材としてパスライト（ユニチカ（株））を選定した。

月 旬		2			3			4			5		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作付期間													

べたがけ栽培の栽培暦



「蒼の砦」



べたがけ栽培の様子

導入の留意点

・トンネル栽培に比べ1～2週間程度生育が遅れる

播種時の平均気温は5～6℃必要なため、地域の気温を確認し、べたがけ栽培の導入を検討する。ベタロン（ダイオ化成（株））の上にパスライトを重ねる2重被覆を行うと、日照が少なく脱春化が起きにくい年でも抽苔発生を抑えることができる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯 ベたがけ栽培の1作/10a当たりの資材費は、トンネル栽培の41,667円に比べて22,500円とおよそ半分。
 - 適応地域 千葉県東総地域と気象条件が類似する地域。
- ※利用年数は農業用ビニールが3年、パスライトが2年と想定

関連情報

- ・技術指導資料「べたがけによる春どり露地野菜の栽培法」
千葉県農林水産技術会議（平成31年3月）



効果

◎2月中下旬に播種し、5月に収穫可能

3月～5月収穫で使用されるトンネル栽培の終盤部分について、代替可能。

◎農業用廃プラの削減

トンネル栽培に使用される農業用ビニール（0.1mm厚）を150kg/10a削減できる。パスライトはポリエチレンであり、16kg/10a程度。

◎労力の大幅削減

べたがけ被覆作業はトンネル被覆作業の23.5時間に比べて3.3時間と1／7程度。

根こぶ病・黄化病抵抗性ハクサイ品種「あきめき」

問い合わせ先：農研機構本部
TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ハクサイ

技術の概要

ハクサイの産地では、土壌伝染の病害である根こぶ病と黄化病の発生が大きな問題になっている。「あきめき」は根こぶ病に強い抵抗性と黄化病に中程度の抵抗性を持つ。

品種名	病原型グループ				品種名	供試個体数	発病株率	平均発病指数
	1	2	3	4				
あきめき	抵抗性	抵抗性	抵抗性	抵抗性	あきめき	14	14.3%	0.18
はくさい中間母本農9号	抵抗性	抵抗性	弱い抵抗性～罹病性	抵抗性	秋理想	48	16.7%	0.13
CR隆徳	罹病性	罹病性	抵抗性	抵抗性	黄久娘65	90	83.3%	2.03
SCRひろ黄	罹病性	抵抗性	罹病性	罹病性	黄久娘80	81	53.1%	0.81
黄双	罹病性	罹病性	罹病性	罹病性	発病指数は0:発病なし、1:一部黄化、2:株の半分が黄化、3:株全体が黄化			

病原型グループはHatakeyamaら(2004)による分類

効果

◎根こぶ病・黄化病の被害軽減

3種類の根こぶ病抵抗性遺伝子を有するため、4つの根こぶ病菌の病原型グループ（上記左表）に抵抗性を示す。黄化病にも罹病しにくく、ハクサイ栽培で問題となっている2つの難防除土壌病害に抵抗性を示す。

◎化学農薬削減

根こぶ病の予防にはフルスルファミド粉剤等の化学農薬が使用され、20～30kg/10aの農薬散布が推奨されている。「あきめき」は、これらの化学農薬を使用せずに栽培できるため、約10,000～15,000円/10aの薬剤費が削減できる。

●根こぶ病激発圃場での「あきめき」と罹病性品種



あきめき

罹病性品種

導入の留意点

・新たな病原型グループの根こぶ病菌の発生に注意

地域によっては「あきめき」を加害する菌株も見つかっている。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

- ・2022年度の栽培面積は茨城県を中心に約570ha
- ・群馬県、長野県などでも栽培されている

関連情報



あきめき
(農研機構 品種紹介)



(株)日本農林社特選カタログ

秋冬どりハクサイにおける 土壌診断に基づく窒素適正施肥法

問い合わせ先：茨城県農業総合センター園芸研究所
TEL:0299-45-8340 e-mail:enken@pref.ibaraki.lg.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ハクサイ

技術の概要

良品のハクサイを生産するためには、畑ごとに適正量の窒素施肥をすることが重要である。

そこで、畑の窒素肥沃度の指標として可給態窒素（土中の有機物由来の窒素供給のポテンシャル）と硝酸態窒素量（残っている窒素肥料の成分など）を用い、窒素肥沃度に応じて最適な窒素施肥量を導き出す技術を開発した。

秋冬どりハクサイにおける良品生産に最適な窒素施肥量は、栽培試験によって求めた「基準値（20kg/10a）」を用いて以下の式により算出する。

秋冬どりハクサイの窒素施肥指針

$$\text{窒素施肥量 (kg/10a)} = \text{基準値 (秋冬どり作型 20kg/10a)} - \text{土壌の可給態窒素 (kg/10a)} + \text{作付前土壌の硝酸態窒素量 (kg/10a)}$$

効果

◎ハクサイの品質安定による収益向上

土壌診断によって畑ごとの地力を評価して、最適な量の窒素施肥を行うことで、販売単価の高い良品を効率的に生産できる。

◎肥料コストと環境への窒素負荷軽減が期待できる

これまで必要以上に施肥をしていた場合、この技術導入によって窒素施肥を最適化することで、肥料コストと環境への窒素負荷を低減できる。



導入の留意点

・土壌の硝酸態窒素含量の測定は、施肥直前に行う

硝酸態窒素は、降雨等の影響を受け変動しやすいため、可能な限り施肥の直前に測定する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況（茨城県）

対象地域において、栽培講習会や現地研修会を開催し、本技術による施肥設計等について普及推進を図っている。現在、生産者67戸（87ha）で技術が活用されている。

●適応地域

茨城県

関連情報

- ・茨城県農業総合センター平成31年度試験研究主要成果秋冬どりハクサイにおける土壌診断に基づく窒素適正施肥法



土壌センシング情報と作条施肥機を利用した キャベツに対する基肥可変施肥技術

問い合わせ先：十勝農業試験場農業システムグループ
TEL: 0155-62-2431 e-mail: tokachi-agri@hro.or.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：キャベツ

技術の概要

キャベツ作では収穫機を使用した一斉収穫の取組が進んでいるが、圃場内歩留まりの向上や生産量の安定化が求められており、圃場内の土壌要因により生じる生育の不均一性を改善して生育を斉一化する技術開発が重要である。

衛星画像に基づくてんさいやばれいしょの生育と土壌腐植含量の解析から、生育と窒素肥沃度が正の相関関係を示す圃場は可変施肥が有効と判別できる。判別した圃場に対し、作条施肥機による基肥可変施肥を適用することで、局所的な収量増や一球重を維持した減肥が可能で、キャベツ生育が斉一化される。

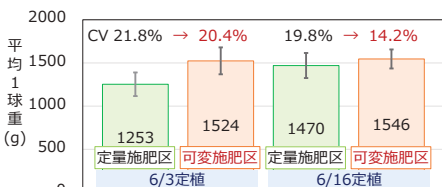


施肥マップ対応型作条施肥機
(サークル機工株式会社製)

効果

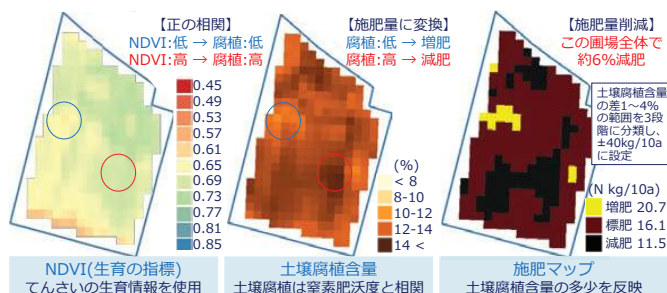
◎過剰な施肥の削減とともに生育斉一化を実現

高肥沃度土壌では1球重を減らさずに減肥でき、低肥沃度土壌では収量底上げにより、生育のばらつき（CV）を縮小できる。



可変施肥による1球重変動係数（CV）の変化（2021年）

●衛星画像に基づく生育・土壌の解析と施肥マップ



導入の留意点

・本技術は黒ボク土地帯で検証

土壌腐植含量は土壌表層のリモートセンシング画像を用いて解析しており、本技術は黒ボク土地帯を対象に検証した。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

- ・リモートセンシング及び肥沃度マップ作成：1,500円/10a
可変施肥マップ作成：500円/10a
- ・供試した作条施肥機を制御するためには専用の接続機材が必要で、対応する施肥マップは株式会社ズコーシャが作成

関連情報

- ①可変施肥事業（株式会社ズコーシャ）
- ②令和5年指導参考事項（北海道農政部）



①

②

マメ科緑肥を用いた野菜の減肥栽培 (積雪寒冷地のキャベツ・エダマメ栽培の事例)

問い合わせ先：秋田県農業試験場

TEL:018-881-3330 e-mail:akomachi@mail2.pref.akita.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

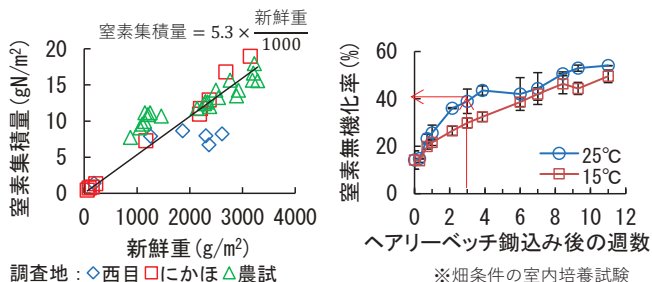
有機農業

生産 品目：キャベツ、エダマメ等

技術の概要

マメ科緑肥作物であるヘアリーベッチは、緑肥栽培のための施肥が不要である。また、土壌に鋤き込み後の分解が早く、肥料効果が期待できる。

ヘアリーベッチは、1㎡あたりの地上部の新鮮重の1/1000を5.3倍すると、窒素集積量に換算できる。また、ヘアリーベッチを土壌に鋤き込むと、2週間で約30%、3週間で約40%の窒素が無機化する（地温25℃の場合）。これらより、ヘアリーベッチ鋤き込みから主作物の定植までに無機化する窒素量を化学肥料代替とし、減肥する。



効果

◎化学肥料使用量を約30%削減

秋冬作キャベツ栽培においてヘアリーベッチを導入した場合、鋤き込み前のヘアリーベッチの窒素集積量が15gN/㎡を超えると、堆肥を無施用で化学肥料を約30%減肥しても、慣行施肥と同等の可販収量である。

●キャベツ、エダマメに導入した場合の栽培暦

秋冬作キャベツに導入した場合

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
播種			ヘアリーベッチ 鋤込み		定植	キャベツ栽培		収穫	
植栽			腐熟						

中生エダマメに導入した場合

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
播種：ヘアリーベッチ植栽									
ヘアリーベッチ 鋤込み			播種	エダマメ栽培		収穫			

導入の留意点

・ヘアリーベッチは湿害に弱い

水田転換畑で植栽する場合は、排水対策を実施する。

・越冬作型ヘアリーベッチは晩生品種を用いる

ヘアリーベッチを越冬作型で植栽する場合は、晩生品種を用い、積雪寒冷地では10月中旬までに播種する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

- ・緑肥種子代：3,000円/10a（播種量3 kg/10a）
- ・ヘアリーベッチの窒素集積量15gN/㎡以上で、化学肥料30%減肥し、収量が同等であった場合、10aあたり4,900円の生産コスト削減（試算条件は、下記の緑肥利用マニュアルに記載）

関連情報

- ・緑肥利用マニュアルー土づくりと減肥を目指してー（（国研）農研機構，令和2年）
- ・ヘアリーベッチを利用したダイズ・エダマメ増収技術マニュアル（秋田県立大学，平成27年）



高能率キャベツ収穫機

温室効果ガス

農薬

肥料

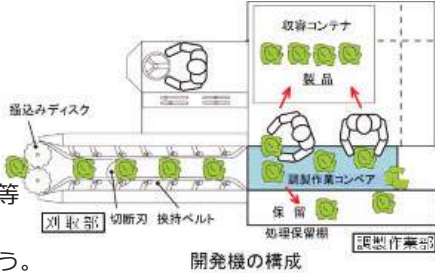
有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：キャベツ

技術の概要

- ・加工・業務用キャベツの収穫・選別・調製作業を1台の機械により行う高能率キャベツ収穫機。
- ・1条の刈取部はキャベツ茎部をディスクで掴んで引抜き、ベルトで搬送・姿勢を補正して茎部を切断する。
- ・調製作業部では、機上の作業者がコンベアを流れるキャベツの選別・調製を行い、収容コンテナに収める。
- ・作業は、オペレータ1名、作業員2名～4名、ローダ等のオペレータ1名の4名～6名で行う。



機上作業の様子

高能率キャベツ収穫機

導入の留意点

- ・加工・業務用キャベツの収穫・調製・収容作業に1畝1条栽培の畝幅60cm以上、畝高さ20cm以下の栽培条件に対応。収穫時作業速度は概ね0.15m/s～0.20m/s。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯
 - ・1,200万円（税込、40PSタイプ）
- 普及の状況
 - ・2014年から市販化、全国の大規模産地を中心に産地に170台が導入・普及。

関連情報

- ・緊プロ農機優良導入事例
- ・メーカーホームページ



効果

◎加工・業務用キャベツ収穫の機械化

慣行のキャベツ生産労働時間（87hr/10a）の3割を占めていた収穫作業の機械化を達成。

◎収穫作業の高精度・高能率化

外葉除去等の調製作業精度 90%以上、コンテナ収容を含む作業能率 2.9a/時、投下労働時間 17.4人・時/10a、慣行手作業の作業時間を40%以上削減。

根こぶ病抵抗性キャベツ品種「YCRふゆいろ」

温室効果ガス

農薬

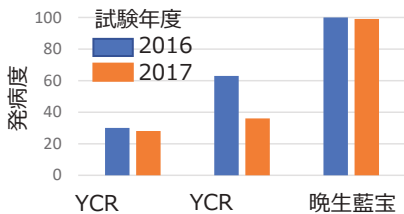
肥料

有機農業

生産 品目：キャベツ

技術の概要

根こぶ病はアブラナ科野菜に大きな被害を引き起こす土壌病害である。被害株の根はこぶ状になり、養水分の吸収が阻害されるため日中萎れて、ひどい場合は枯死する。「YCRふゆいろ」は、市販品種で最高レベルの根こぶ病抵抗性と優れた実用形質を持つ寒玉系のキャベツである。



「YCRふゆいろ」の収穫物

幼苗検定での根こぶ病抵抗性比較
発病率点、0（無病徴）、1～3（こぶの大きさ）、
発病度：（Σ（発病率点×株数）／（最大発病率点×全株数））×100

●根こぶ病発生圃場で栽培したキャベツの根

一般品種には大きなこぶが発生するのに対して、「YCRふゆいろ」ではほとんどこぶができない。



YCRふゆいろ

罹病性品種

導入の留意点

- ・新たな病原型グループの根こぶ病菌の発生には十分な注意が必要
- 多様な根こぶ病菌の中には本品種を加害する菌株が存在する可能性もあることから、耕種的防除を含む総合防除を行うことが推奨される。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及の状況
 - ・2022年度から種子販売を開始、2024年度の栽培面積は約140ha

関連情報



農研機構 品種紹介



(株)日本農林社 商品紹介

効果

◎農薬使用量の低減

根こぶ病防除用の土壌殺菌剤が不要になるため、20-30kg/10aの農薬使用量低減が可能になる。

◎根こぶ病の被害を軽減

複数年の試験により、強度で安定した抵抗性を持つことが明らかにされている。

◎高い実用形質

球の肥大性が良好で収量性に優れる。球形は平玉で、青果・加工用途の両方に適する。

野菜用高速局所施肥機

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

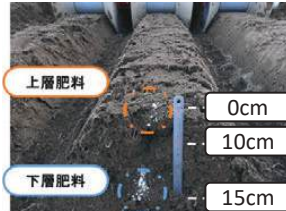
生産 品目：キャベツ等

技術の概要

畝内の上層と下層の二段に筋状に肥料を落とす二段局所施肥を行うことができる畝立て同時施肥機である。従来の局所施肥技術の、生育障害を起こしやすいというデメリットを抑え、高い肥料の利用効率というメリットを最大限活かすことのできる技術であり、施肥量の削減が期待できる。

二段局所施肥は、ロータリーではなく前後二列に配置されたリッジ（いわゆる培土器で、溝を作ったり土を寄せるための爪）を用いることで実現された技術である。

また、上記リッジにより土のかき分け、施肥、かき寄せを連続して行うため、土壌全体を攪拌するロータリー方式と比較し作業速度が最大2倍以上にまで高められている。



GNSSと傾斜角度センサを用いることで、丘陵地帯でも繰出量の変動することなく設定した施肥量を播くことができる。コントローラーはデジタル化され、施肥量は液晶画面を見ながら数値で入力することができる。

導入の留意点

・減肥栽培は土壌分析を踏まえて行うことが必要

減肥の効果は土壌や栽培条件によって異なるため、減肥栽培を行う場合は事前に土壌分析等により養分収支の計算を行い、土壌の特性に見合った施肥量とする必要。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

本機は上田農機（株）から、主に婦恋村等夏秋キャベツ産地向けに「ボビンローラー三兼3連ソワー」、また（株）タイショーより全国の野菜産地向けに「畝立同時施肥機グランビスタKUTシリーズ」の名称で条間45cm仕様、条間60cm仕様の2型式が販売されている。希望小売価格は全型式ともに198万円（税別）。

関連情報

野菜用の高速局所施肥機の開発
(農研機構技報 No.2, p.14-17.)



効果

◎高い肥料の利用効率で施肥量を3割削減

上層と下層の二段に局所施肥を行うことから、生育ステージに合わせた効率の良い養分の供給を行えるため、肥沃な土壌では施肥量を慣行比3割削減することができる。

◎リッジを利用した最高1.4m/sの高速畝立作業

リッジを利用することで、ロータリー方式の畝立機では実現不可能な最高速度1.4m/s（5km/h）で畝立施肥作業を行うことができる。

◎GNSS等を利用した高精度な肥料の繰り出し

容易に設置可能で省力的な キャベツセル成型苗の底面給水育苗技術

問い合わせ先：滋賀県農業技術振興センター

TEL:0748-46-3083 e-mail:gc57300@pref.shiga.lg.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：キャベツ

技術の概要

秋冬野菜の夏季高温条件下でのセル成型育苗では、従来の手かん水は労力を要する上、生育ムラが生じやすい。そのため、かん水ムラが少なく省力的で、設置が容易な育苗技術を開発した。

育苗架台の上に防草シート、吸水マット、防根シートを重ね、その上面に点滴チューブを設置する。

キャベツを播種したセルトレイを直置きしてタイマーにより自動給水し、セル成型苗を生産する。

かん水にかかる時間が減少し、労働時間が減少。従来の手かん水と同等の苗質で機械定植にも対応できる。



点滴チューブの配置例



育苗箱による簡易育苗架台脚の例

導入の留意点

- ・**架台面に注意** 架台面に大きな凸凹があると、トレイ底面から均一に吸水しないため注意が必要。
- ・**対応品目** 現地ではブロッコリーなどで活用事例あり。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯 底面給水床の資材費（セルトレイ332枚分）
防草シート※、吸水マット※、防根シート、
電磁弁付きタイマー※、点滴チューブ
初年度合計 約12万円
※：複数年使用可能 単年度換算合計 5.5万円

- 普及の状況
滋賀県で約60ha分相当のキャベツの育苗で導入
全国で適応可能であり、茨城県、広島県、福島県などでも導入が進行

関連情報

最新農業技術・品種2017「容易に設置可能で省力的な
キャベツセル成型苗の底面給水育苗技術」



効果

◎育苗にかかる労働時間を52%削減

セルトレイ300枚あたりの労働時間は、手かん水 128.5時間に対して、底面給水育苗は61.5時間(架台組立て時間を含む)と52%削減できる。

◎かん水ムラがでにくい

セルトレイの隅々まで均一にかん水できるため、かん水ムラがでにくく、生育のそろった苗を作ることができる。

オオムギ間作による害虫抑制

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：野菜（キャベツ、タマネギ等）

技術の概要

春作のキャベツやタマネギの定植前後に畝間（通路部分10a当り）にオオムギを5～10kg播種し、生育させることで数種類の害虫密度を抑制し、被害を軽減することができる。

総合防除（IPM）のひとつの技術として殺虫剤使用回数の削減に貢献するとともに、有機農業での利用も可能である。

品目	キャベツ				タマネギ
	モンシロチョウ	ウワバ類	コナガ	アブラムシ類	ネギアザミウマ
害虫					
間作の害虫抑制効果	4～7割減	2～4割減	0～2割減	6～9割減	6～9割減

*宮城県における試験事例を示したもので、オオムギ間作の害虫抑制効果は、作型や気象条件等により異なる。

効果

◎殺虫剤の散布回数削減が可能

東北地域の春作タマネギ、ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ナスにおいて、本技術を導入することで殺虫剤散布回数が削減できている。

◎土着天敵の定着・温存による多様性促進

オオムギを間作することで、土着天敵であるゴミムシ類やヒラタアブ類等の増加が確認されている。オオムギが土着天敵の定着しやすい環境を提供していることが、害虫抑制効果の一因と推定される。

導入の留意点

・オオムギの間作

オオムギ播種部分への施肥は必ずしも必要ではないが、播種後は必ず覆土をする。宮城県では4月にオオムギを播種すると7月には倒伏し枯死する。総合防除技術のひとつとして他の防除手段と併用すること。



・オオムギの過繁茂による収量減の可能性

収穫物の小玉化など悪影響が懸念される場合には、生育途中にオオムギを草高10cm程度に刈り込むことで、害虫抑制効果を維持しつつ収穫物への悪影響を軽減できる。

・生分解性マルチとの併用が効果的

プラスチックマルチを利用した場合、オオムギの根から剥がれにくい傾向がある。生分解性マルチ導入によりオオムギ残渣とともにすきこむことで省力化につながる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

・リビングマルチ用オオムギ（間作）：1,000円程度/kg

関連情報

オオムギ間作・開花植物による露地野菜の害虫抑制技術マニュアル宮城県版（宮城県農業・園芸総合研究所、農研機構植物防疫部門、農研機構東北農業研究センター、（地独）青森県産業技術センター農林総合研究所）



キャベツ、ハクサイに利用できる堆肥入りの一発肥料を開発

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：キャベツ、ハクサイ

技術の概要

近年、岡山県内の露地野菜畑では、有機物投入量が十分で土壌の養分量もアンバランスになっている圃場が増えている。そこで、有機物として家畜ふん堆肥を含み、土壌養分の過不足に対応し、さらに追肥も省略できる新しいタイプの肥料を開発した。

堆肥等の有機資源を活用した本肥料を施用すると、追肥が不要になり、収量を保ちつつコストが削減でき、さらに、連用によって土壌肥沃度が向上する。



効果

◎土壌肥沃度が向上し養分バランスが改善する

開発した肥料は、有機物供給効果の高い牛ふん主体の家畜ふん堆肥と苦土、ホウ素を含む一方で、過剰傾向にあるリン酸を少なくしている。

◎従来より省力で低コストの施肥が可能になる

開発した肥料は、追肥が不要で、高度化成肥料等の分施肥と同等の収量が得られ、施肥コストも削減できる。

●開発した肥料

開発した肥料は、家畜ふん堆肥と不足傾向の苦土、ホウ素を含む一方で、過剰傾向にあるリン酸を少なくしている。さらに、追肥作業を省くために緩効性窒素肥料を混合し、散布しやすいようにペレット状に造粒している。



開発した肥料「キャベツ一発堆肥入り037」（窒素10%-リン酸3%-カリ7%-苦土1%-ホウ素0.05%）

導入の留意点

・リン酸が低成分であるため、土壌にリン酸が十分含まれる圃場で使用する

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●施肥コスト

・開発した肥料の施肥コストは、高度化成肥料等による分施肥栽培（堆肥+土づくり肥料+高度化成）に比べて、約13,000円/10a安価になる（2023年8月時点）。

●普及の状況

・岡山県内で普及推進中

関連情報

・農業研究所で開発した新技術2020



高能率軟弱野菜調製機

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

加工・流通

品目：ホウレンソウ

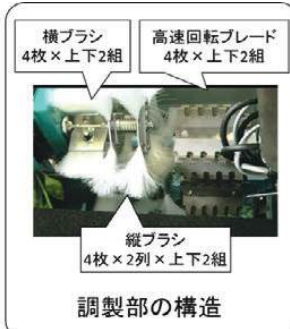
技術の概要

ホウレンソウの根切り、子葉・下葉の処理を高精度・高能率で行える調製機を開発した。

供給者がホウレンソウを1株ずつ供給部のベルト上に静置すると、調製部で根切りと子葉・下葉の除去が行われる。

仕上げ作業者は、搬出部のベルト上を流れてくる株に仕上げ調製を行い、コンテナに収容する。

概ね 草丈20cmから45cmまでの株の調製が可能。



高能率軟弱野菜調製機

導入の留意点

- 雨よけ栽培の立性ホウレンソウで作業性良。
虫食いや病斑葉、軸折れ、混入異物等の除去は手作業で行う。

効果

◎調製作業が効率的に実施できる。

根切りや子葉・下葉の除去が高精度に行われ、作業者により仕上げ調製を行う割合が大幅に減少。

◎誰でも簡単に使え、作業精度に個人差が少ない。

◎能率も高く、2人作業による省力効果がある。

作業能率は900株/人・hr(供給1人、仕上げ1人)と高く、従来機(供給1人、仕上げ3人、600株/人・hr)に比べ、省力効果が高い。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯
・ 120万円（税込）
- 普及の状況
・ 2018年から市販化され、全国の産地に300台が導入・普及。

関連情報

・ 群馬県農業技術センター
研究報告第17号（2020年3月発行）



増収とリン酸減肥を可能にする 定植前のネギ苗へのリン酸カリ溶液施用

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ネギ

技術の概要

ネギ苗を高濃度のリン酸カリ溶液に定植前に浸漬することによって、初期生育が顕著に促進され、リン酸施用量を50%以上削減しても、慣行と同等以上の収量を確保できる。



●ネギの初期生育を促進

ネギの苗をリン酸濃度1%に調製したリン酸カリ溶液に浸漬してから定植することによって、初期生育が顕著に促進され、リン酸減肥が可能になる。



導入の留意点

- 定植前リン酸苗施用のための肥料が必要
定植前リン酸苗施用を行うために別途肥料が必要であり、市販リン酸資材「サンピプラス」の場合7kg/10aである。
- 労働時間の増加
苗施用のリン酸カリ溶液を調製して苗を浸漬するために、1.5時間～3時間/10aほど労働時間が増加する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 適応地域 東北・北陸地域
- 改良・普及の状況
・ 低温期の定植となる夏どり栽培、乾燥しやすい時期に定植となる秋どり栽培生産者を中心に山形県で普及

関連情報

土壌診断、施肥法改善、土壌養分利用によるリン酸等の施肥量削減にむけた技術導入の手引き



効果

◎収量向上効果

初期生育が促進されることによって、リン酸肥料を50%以上削減しても収量が高まる。

◎収益性向上効果

収量増による収入増と圃場へのリン酸肥料の施用量削減によって、定植前に使用する資材費や労働時間の増加を十分に補填でき、収益性が高まる。

ネギ黒腐菌核病の防除法選択チャート及び 薬剤散布の適期判定法

問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター東総野菜研究室
TEL:0479-57-4150

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

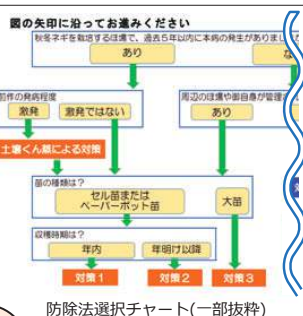
有機農業

生産 品目：ネギ

技術の概要

秋冬ネギの黒腐菌核病は難防除の土壌伝染性病害であり、発病後の防除手段がない。また、発生時期が毎年異なり、適期に予防散布ができない。

そこで、栽培方法や発生リスクに応じた防除法選択チャート及び生育期薬剤散布の適期判定法を開発した。



生育期薬剤散布の適期判定法

薬剤散布の適期は初期感染の直前の時期：日平均地温が20℃を下回った時期に散布する

9～10月の地温は日最高気温と日最低気温の平均とほぼ同じ

週間天気予報の最高・最低気温から簡単に誰でも推定可能

〇〇地域の天気予報

	今日	あす	あさって
最高気温	26℃	25℃	24℃
最低気温	14℃	15℃	16℃

効果

◎適期防除による安定した防除効果

発生前の防除適期を見逃さず、予防剤を散布することで、安定した防除効果が実現できる。

◎薬剤散布の減少

栽培法や発生リスクに応じて防除手段が選択可能であり、土壌くん蒸剤処理等の薬剤使用が減少できる。

●ネギ黒腐菌核病

- ・ *Sclerotium cepivorum* Berkeleyによる土壌伝染性病害
- ・ 10月頃から秋冬ネギ栽培で発生
- ・ 葉先枯れから始まり、重症化すると葉鞘部が腐敗
- ・ 残渣の菌糸や土壌中の菌核が翌年の発生源



発生圃場



罹病株



着生した菌核

導入の留意点

・作型による適用に注意

薬剤散布の適期判定は、春の感染は考慮していないため、秋冬ネギ以外には適用できないことがある。

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

- 普及の状況：防除法の周知が進み、本病の被害が減少している。全国の秋冬ネギで実施可能である。

関連情報

- ・ 技術指導資料(千葉県、令和5年)
「秋冬ネギ栽培における黒腐菌核病対策」

- ・ 「秋冬ネギ生産者の皆様 黒腐菌核病でお困りではありませんか？」



問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター病理昆虫研究室
TEL:043-291-9991

公開

ネギべと病防除支援情報システム「ねぎべと病なび」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ネギ

技術の概要

千葉県の秋冬ネギでは年によって「べと病」が多発する。その発生条件は

- ①8月の日最低気温の平均値が23.1℃以下の年は発生するリスクが高い
- ②日最低気温が13℃以上20℃以下で、日照時間が1時間以下、降水量4mm以上の日に感染しやすい



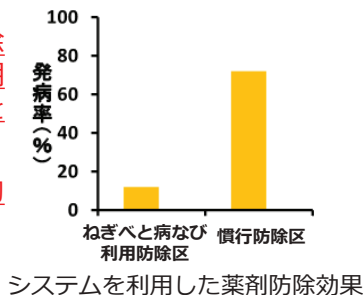
ネギべと病

アメダスデータを取得して①②の気象条件をとらえ、感染しやすい条件が出現した日をチャート化して示すシステムを開発した。ネット環境にあるPCで、Microsoft Excel上で稼働する。

効果

◎発生予測により防除要否を判断し、適期防除のタイミングを示すことができる

◎根拠に基づく効率的な防除を実践できる



「ねぎべと病なび」防除支援チャートの表示画面

赤の横棒グラフ：当年のべと病の推定発生確率
折れ線グラフ：気温(平均、最高、最低、破線は平年値)
棒グラフ：正は降水量、負は日照時間
□、△、●：感染好適日の評価。●が最も感染が起こりやすい

導入の留意点

- ・ 千葉県農林水産部担い手支援課(TEL 043-223-2907)に利用申請書を提出する。県外も入手可能。取扱説明書あり

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

- ・ 千葉県病害虫発生予報、千葉県内ネギ産地の防除指導で使用
- ・ 適応地域：全国のネギ、タマネギ産地で活用可能

関連情報

- ・ 最新農業技術・品種2015
「ねぎべと病防除支援情報システム」
- ・ 千葉県試験研究成果普及情報(平成26年度)
「ねぎべと病防除支援情報システム『ねぎべと病なび』」



難防除病害ネギ黒腐菌核病の省力的な総合防除対策 (輪作、アルカリ分供給及び殺菌剤苗灌注の併用)

問い合わせ先：静岡県農林技術研究所 植物保護・環境保全科
e-mail: agrihogo@pref.shizuoka.lg.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ネギ（根深ネギ）

技術の概要

ネギの黒腐菌核病は収量が激減する深刻な病害である。その防除には、被覆土壌くん蒸消毒と殺菌剤の生育期処理体系が効果的だが、特に被覆土壌くん蒸消毒は重労働のため実施が困難である。

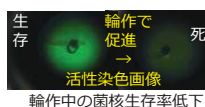
そこで、輪作による菌核生存率低下、低温期(秋～春)のアルカリ分株元供給 (pH7-7.5目安)による病原力低下と、殺菌剤の苗灌注処理との組み合わせにより、土壌消毒無しでも本病の発生が多い圃場におけるネギ栽培を可能にする。



効果

◎輪作で菌核の生存率低下

地力維持の目的で推奨されているイネ科等の輪作により、伝染源となる土壌中の菌核生存率が低下する。



◎アルカリ分供給で黒腐菌核病菌の病原力低下

病原菌は低温期 (20℃以下) に活性化し、酸を生産して病気を進行させるので、事前のアルカリ資材土壌混和で病原力が低下する。

◎殺菌剤苗灌注で省力的薬剤処理

殺菌力と浸透性が高い殺菌剤(ピラジフルミド：商品名パレード20フロアブル等)の苗灌注で散布処理と同等の防除効果が得られる。

◎省力防除で慣行の被覆土壌くん蒸+薬剤散布と同等の効果

甚発生条件でも、慣行の総合防除と同等の防除効果(無処理の廃棄株率が98%の時に3%に抑制)。土壌消毒に加え殺菌剤も30%削減。

●作型ごとの総合防除モデルと削減できる薬剤防除 (転炉スラグの定植時植え溝施用の場合)



導入の留意点

・転炉スラグの必要量を事前に調査する

転炉スラグの定植時植え溝施用にあたって、事前にスラグ必要量調査(村上 2005)を行い、苦土補給のため、水酸化マグネシウムも25kg/10a加える。

その他(価格帯、研究開発、改良、普及の状況)

- 価格帯 (春どり想定 慣行は生育期に殺菌剤3回処理)
 - ・輪作：地力維持等で取り組んでいる場合は、追加作業不要
 - ・転炉スラグ処理：資材費約2.5万円/(1人×2h)/10a
 - ・殺菌剤苗灌注処理：パレード20 1.4本 約0.9万円/10a 1人×0.2h (慣行)被覆土壌くん蒸：資材費約7万円 (片付け含め4人×6h)/10a
 - ・殺菌剤生育期処理：資材費約1.2~1.8万円(剤による)/10a 1人×2h×3
- 改良・普及の状況
 - ・県内主要産地で現地試験を実施し、生産者に結果を周知した。
 - ・転炉スラグの定植時植え溝施用は、高温期病害である萎凋病も軽減。

関連情報

- ・生物系特定産業技術研究支援センター 研究成果
- ・静岡県 あたらしい農業技術 685(2022)



新型赤色防虫ネットを用いたネギ及びトマトのアザミウマ類およびコナジラミ類防除

問い合わせ先：京都府農林水産技術センター
TEL:0771-22-0425

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ネギ・トマト

技術の概要

府南部のネギ栽培では、ネギアザミウマが殺虫剤感受性の低下により多発しているだけでなく、本種が媒介するウイルスによってネギえそ条斑病が発生し、その被害が問題になっている。また、トマトでもミカンキイロアザミウマやタバココナジラミにより品質低下などの被害が生じている。

そこで、農業に頼らない物理的防除法の一つとして、新型赤色防虫ネットを開発した。



新型赤色防虫ネットで囲ったネギほ場



トマトハウスでの使用例

効果

- (ネギ)
 - ◎縦・横糸が赤色のタイプ(赤赤)と縦・横糸が赤色・黒色のタイプ(赤黒)の防虫ネットは、ネギアザミウマに対して侵入抑制効果が高い。
 - ◎圃場を赤色タイプのネットで囲むことによっても、侵入抑制効果(無処理の2分の1)が認められる。
 - ◎薬剤散布による防除が、ネット無では4回必要だが、全面被覆で2回、天井/サイドだけ展帳で3回に抑えられる。
- (トマト)
 - ◎赤白及び赤赤タイプのネットにおけるアザミウマ類の発生密度は白色タイプのネットの約2分の1に抑えられる。
 - ◎赤白及び赤黒タイプのネットにおけるコナジラミ類の発生密度は白色タイプのネットの約10分の1および12分の1に抑えられる。

本研究は内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「次世代農林水産業創造技術」(管理法人：農研機構 生研支援センター)によって実施されました。



赤白ネット(従来型) 赤赤ネット(新型) 赤黒ネット(新型)

赤赤ネット(中央)、赤黒ネット(右)が今回開発した新型ネット

導入の留意点

- ・赤色防虫ネットは、定植もしくはは種前に設置する・赤色防虫ネットが色落ちした場合には、防除効果が低下する・赤色防虫ネットはアザミウマの種類により防除効果が異なる

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

●価格帯(ネギ)

- ・全国で販売されており、利用可能。
- ・ハウスサイドに新型ネット展帳 23万円(10a当たり)
- ・新型ネットをハウスサイドに展張する方法で、既存品全面被覆より約3万円コスト減

関連情報

- ・ネギ栽培における赤色系防虫ネット技術マニュアル(平成31年)
- ・化学合成殺虫剤を半減する新たなトマト地上部病害虫防除体系マニュアル ― 個別技術集 ― (2019)



生産 品目：ネギ

技術の概要

開発した加工・業務用葉ねぎ収穫機は、葉ねぎの地上部だけを刈り取って収納する3～4条刈り用の電動モータ駆動式の収穫機である。

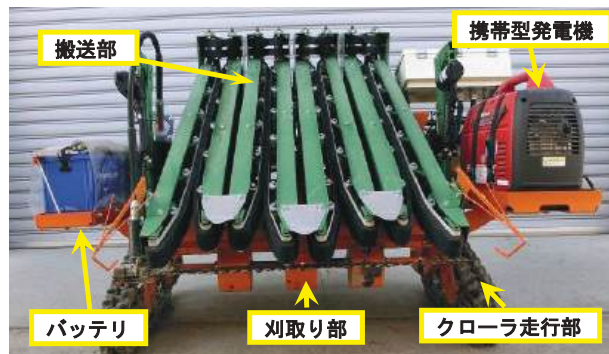
機体は、ゴムクローラの走行部、刈取り部、搬送部、収納部、バッテリーなどから構成される。また、携帯型発電機を搭載し、バッテリーの電力低下時は補充電しながら作業を行う。これまで手作業で行われていた収穫作業を省力化でき、作付面積の拡大が期待できる。



収穫作業に労力がかかる



収穫作業の機械化により作付面積拡大



導入の留意点

本機の利用にあたっては、葉ねぎの倒伏がないこと、条間隔が24cm以上かつばらつきが5cm以内であること、畝高さが25cm以下で畝幅が134cm以下であることなどの要件を満たす必要がある。

導入下限面積は、次の価格の場合6.4haと試算されている。

効果

◎手作業による収穫作業時間から70%削減

本機による作業能率は7.8人・h/10aであり、慣行の手作業によるもの(26.3人・h/10a)に対し70%削減できる。

◎収穫作業の軽労化

本機を利用した場合、作業中の平均心拍数が人力収穫と比較して20%程度減少し、労働負担の軽減効果が認められる。

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

●価格帯

加工・業務用葉ねぎ収穫機・NPSH-4
539万円(税込) (株)ニシザワ 2021年11月から販売

関連情報

加工・業務用葉ねぎ栽培管理マニュアル
(葉ねぎ省力安定生産コンソーシアム、
代表機関 香川県農業試験場)



暑さに強く濃緑色の小ネギF1品種
「やまひこ」

生産 品目：ネギ

技術の概要

中原採種場(株)の細胞質雄性不稔(CMS)素材を種子親に、山口県の極濃緑色素材を花粉親に、50cm程度で収穫する葉ネギF1品種「やまひこ」を育成した。

本品種は、葉身の先端部まで真っ直ぐで草姿が良く、一般品種よりも葉色は濃緑色で1本重は重く収量性に優れる。また、高温・乾燥条件下での葉先枯れの発生が少なく、耐暑性に優れる。この品種は夏栽培専用種とし、適作型は5月～8月播種で7月～10月収穫が適する。

6月下旬に播種し、概ね60日間の栽培後に収穫・調製した荷姿。

左が「やまひこ」で右が市販品種の「浅黄系九条」である。「やまひこ」は草姿の美しさと葉色の濃さが明確である。



「やまひこ」「九条」

導入の留意点

・夏期専用栽培の小ネギ品種

気温の低下で伸長が緩慢になる可能性があるため冬季の作付けは推奨しない

その他(価格帯、改良・普及状況、適応地域)

西南暖地の小ネギ産地を普及対象とする
2022年に中原採種場(株)が約1000kgの種子を全国販売

関連情報

・濃緑色葉ネギ「中山交01(やまひこ)」の育成と特性

・濃緑色葉ネギ品種を活用した夏期の小ネギ安定生産に寄与する栽培方法



効果

◎高温条件下でも発芽がよく葉先枯れの発生が低い

35℃の高温条件下でも発芽揃いがよく85%以上の発芽率を示し、収穫時の高温による葉先枯れのダメージが他品種よりも少ないこともあり、収量・製品率が高い

◎総施肥量は窒素成分で半減

葉色が一般の品種よりも濃いため、過度な水分制限や窒素の多用をする必要がなく、投入総窒素量は従来の半量の1.0kg/aでよい

◎倒伏し難く収穫・調製作業が容易

高温下でも徒長しにくいいため、倒伏しにくい

タマネギ直播栽培における直下施肥を用いたリン酸肥料の減肥技術

問い合わせ先：農研機構本部
TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：タマネギ（直播栽培）

技術の概要

タマネギ直播栽培において、種子の直下へリン酸施肥を行うことで、減収することなく、基肥のリン酸施肥用量を約30%削減することが可能となる。直下施肥により、減肥しても効果的に肥料成分の吸収が可能となり、初期生育が促進される。なお、減肥+直下施肥では、肥大開始や倒伏が早まり収量が安定する。

方法は、基肥リン酸量の1/3～1/4（リン酸成分で約10kg/10aの過リン酸石灰）を、コート種子直下約2～4cm（幅3～4cm）へ局所施用する。残りの基肥（2/3～3/4のリン酸、窒素及びカリウム）は、全層施用する。



●施肥播種機械の導入

・播種機械自体は慣行の播種機であるが、直下施肥のための施肥機構は北海道の平床仕様、本州の畦立て仕様とも開発済。



平床仕様
(アグリテクノ
一チ株式会社より)



畦立て仕様
(株式会社
クボタより)

導入の留意点

・種子と肥料の接触は収量減の可能性

種子と肥料が接触する条件では、リン酸施肥用量が増えるにつれて出芽が遅延するため、施肥は種子の下方2cm以上のギャップを設けて肥料と種子が接触しないように留意する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

- ・平床仕様（施肥播種機）：約130万円
- ・畦立て仕様（施肥播種機）：約158万円～179万円
- ＊平床仕様は火山性土壌で効果が高い

●普及の状況

- ・平床仕様は2015年から、畦立て仕様は2021年から市販

関連情報

- ①タマネギ直播栽培における直下施肥を用いたリン酸肥料の減肥技術（最新農業技術・品種2018（平成30年））
- ②畑作地帯における加工・業務用たまねぎの直播栽培指針（北海道農政部（令和2年））
- ③福島県を中心とした被災地域における営農再開に向けたタマネギの新たな栽培技術（福島県農業総合研究センター（令和3年））



水田転換畑におけるタマネギベと病の発病リスク評価表を用いたHeSoDiMマニュアル

問い合わせ先：富山県農業研究所病理昆虫課
TEL:076-429-2111

試験運用中/開発中

温室効果ガス

農薬

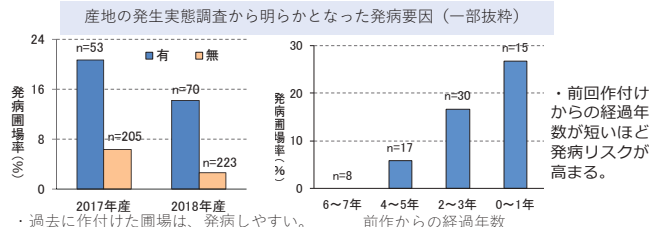
肥料

有機農業

生産 品目：タマネギ

技術の概要

タマネギベと病は、一旦発生すると防除が困難なため、富山県内産地では一律的な薬剤防除が行われているが、リスクの小さい圃場ではなるべく無駄な防除を省き、省力化・環境負荷低減を図る必要がある。そこで、産地の発生実態調査を行い、抽出された発生要因から本病の発病のしやすさを算出するためのリスク評価表を開発した。また、算出される圃場の発病レベルに応じて防除対策を選定でき、その有効性が現地で実証された。これらの成果を基に、本病のHeSoDiMマニュアルを作成した。



効果

◎圃場の発病しやすさのレベル（発病レベル）に応じた防除対策の実施

評価表（表1）により圃場ごとの発病レベルが診断でき、レベルに応じて防除強度を設定した対策表（表2,3）から効率的な防除対策が選択できる。

◎作付計画の最適化

作付前に圃場ごとの発病レベルが把握できるため、レベルの高い圃場では作付を回避するなど、病害管理の視点に立った作付計画の見直しができる。

圃場ごとのリスク診断 → 作付計画の最適化 → リスクに応じた対策の選択 → ムダの無い効率的な病害管理

表1 タマネギベと病の「発病のしやすさ」を算出するための診断表

診断項目	リスク値			
	0	1	2	3
(栽培履歴)				
作付け履歴	無	1回	2～3回	4回以上
過去の発病	無	有	有	有
前作からの年数	5年以上	2～4年	1年	連作
自作地での発病	無	有	有	有
前作以降の水稲作	有	無	有	有
前作以降の夏季湛水	有の場合のみ(～5)			
(圃場環境)				
排水性(遠観)	良	普通	不良	

注)リスク値の合計から「発病のしやすさ(発病レベル)」を以下のとおり算出する。0～1:レベル①、2～3:②、4～5:③、6以上:④

表2 発病レベルに応じた防除対策

対策1(発病レベル1)	
(1)新種の防除①	排水対策、適期定植、適正な植付深さ
(2)薬剤防除	越冬前:1回、春季:2回
対策2(発病レベル2)⇒ 慣行相当	
(1)新種の防除①	排水対策、適期定植、適正な植付深さ
(2)薬剤防除	越冬前:1回、春季:4回
(3)作付け後の対策	夏季湛水
対策3(発病レベル3)	
(1)新種の防除①	排水対策、適期定植、適正な植付深さ
(2)新種の防除②	一次伝染株の抜き取り
(3)薬剤防除	越冬前:1回、春季:4回
(4)作付け後の対策	夏季湛水、輪作体系の見直し
対策4(発病レベル4)	
(1)輪作	作付け圃場の変更を検討

表3 表2の対策に対応した薬剤防除体系(R3年産時点)

表2の対策	越冬前防除					春季防除			
	11月上旬	3月中旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬
対策1									
対策2	ザンプロ	リドミル	ゴールド	ジャスト	プロースW	ジマンダイセンW			
対策3	F	W	W	W	W	W			

導入の留意点

- ・適用する地域によって評価表の修正が必要な場合がある
- ・圃場作業の工程管理（発病レベルの低い圃場から優先的に作業するなど）にも応用できる

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- ・HeSoDiM (Health checkup based Soil-borne Disease Management) マニュアルとは、圃場の健康診断に基づく予防的な土壌病害管理を実践するための診断対策プログラムのこと。
- ・本マニュアルの作成に使われたデータも含め、様々な地域、品目、病害の発病レベルの評価が行えるAIアプリ「HeSo+」が、農水省委託プロジェクト研究「AIを活用した土壌病害診断技術の開発（2017～2021年）」で開発されている。

関連情報

・HeSoDiM技術情報/圃場診断システム推進機構



・HeSoDiM技術情報/圃場診断システム推進機構



夏期高温期の湛水による タマネギベと病の一次伝染抑制技術

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：タマネギ

技術の概要

タマネギベと病は、日本の各産地で発生する重要病害である。多発した圃場では、収穫後も土中にベと病菌が存在し、それが原因で一次伝染株が発生する。一次伝染株が発生した圃場では二次伝染株も発生しやすい。ベと病の発生を抑えるためには夏期に病原菌の密度を低下させることが重要である。

本技術は、夏期高温期に50日間連続して湛水することにより病原菌の密度を低下させることができる。湛水処理期間は高く地温が維持され、かつ湛水によって還元状態になり病原菌が死滅する。



タマネギベと病

50日の湛水期間中に平均地温を30℃以上に維持できれば全国で適用できる。

本技術は、革新的技術開発・緊急展開事業「西日本のタマネギ産地に深刻な被害を及ぼしているベと病の防除技術の開発と普及」の研究成果である。

●夏期湛水処理の方法

この湛水技術は、農薬を使用せず、圃場に水を長期間溜めることが可能ならば、即座に導入できる技術として農家に注目され普及が進んでいる。

重要なポイントは、途中で落水せずに7月下旬から9月上旬まで50日間湛水することである。



夏期湛水試験時の圃場（2018年）
（佐農試・白石分場）

導入の留意点

・冷夏長雨の場合には効果が低下

日照時間が少なく平均地温30℃以上が確保できない場合は効果が低下する。

・湛水期間はイネなどの作物の作付けを避ける

作付けした場合は地温の確保が難しくなる。

効果

◎夏期50日間湛水で一次伝染株の発生を抑制

一次伝染株の発生をほぼ完全に抑制でき、防除回数を減らすことができる。

（2018年度の試験結果）

一次伝染株の発生率は、無湛水の場合9.3%であったが、夏期湛水することで0.0%であった（調査株数は1200株）。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

佐賀県では主要産地である白石町において、2024年に約40haで導入された。

関連情報

・タマネギベと病対策マニュアル Ver.4-
（佐賀県タマネギベと病対策会議 2021年（令和3年））



タマネギの収穫・運搬作業を省力化する 高能率収穫機と収納容器

問い合わせ先：香川県農業試験場
e-mail:noshikikaku@pref.kagawa.lg.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
（労働生産性）

生産 品目：タマネギ

技術の概要

暖地のタマネギ産地では、小型のプラスチックコンテナを使った人力による運搬・搬出が行われており、生産者の大きな負担になっている。

開発したトラクタ装着型の高能率収穫機と同機専用の収納容器を既開発の青切り用調製機を組み合わせることで、重労働であった暖地でのタマネギ収穫・調製作業が省力かつ高能率に行える。



①掘取り・収納
（高能率収穫機）



②運搬・搬出
（専用収納容器）



③移し替え



④調製作業
（青切り用調製機）

●高能率収穫機



- ・掘取り作業幅 105cm
- ・先金、コンベア振動式
- ・収納部荷台傾斜角可変式

●収納容器

（フレキシブルコンテナバッグ）



- ・自立、折り畳み式
- ・底面解放、排出型
- ・容量600ℓ、質量3.0kg
- ・タマネギ収納量 170～300kg
（青葉）（枯葉）

導入の留意点

- ・収穫機を装着するトラクタは、栽培した高畝が跨げるようトレッドの拡幅が必要である（場合によってはスペーサが必要）
- ・収納容器は10aあたり30～40枚必要である
- ・導入対象は3～4ha程度の中規模経営体

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯（税別）と普及状況

- ・高能率収穫機 168.4万円（株）上田農機、2023年現在 30台
- ・収納容器 1.3万円/袋（株）田中産業、2023年現在 1250枚
- ・青切り用調製機 1連119.7万円、2連210万円
（株）ニシザワ、2023年現在 380台

関連情報

・青切りタマネギの新収穫・調製体系作業マニュアル
（タマネギ機械化コンソーシアム、代表機関
香川県農業試験場）



効果

◎収穫・搬出に係る作業時間を現状の52%に短縮

- ・高能率収穫機（速度0.26m/s）と専用収納容器（容量300kg）を組合わせた掘取り・収納時間は2.0hr/10a。
- ・トラクタ装着のフロントローダ等を利用した収納容器の運搬、搬出時間は1.2hr/10a。

◎収穫・運搬作業の労働負担が大幅に軽減

- ・積み込み、運搬作業をすべて機械化することにより、人力による重量物の運搬作業等を軽減。

◎調製機との組み合わせ利用により、収穫から搬出、調製に至る作業時間が慣行の73%に削減

露地キュウリ栽培で発生するCMVとWMVを同時に防除できる混合ワクチン接種苗

問い合わせ先：京都府農林水産技術センター
TEL:0771-22-0425

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：キュウリ

技術の概要

露地キュウリ栽培で被害の大きい「CMV（キュウリモザイクウイルス）」及び「WMV（スイカモザイクウイルス）」の混合ワクチンを共同研究により開発するとともに接種苗として農業資材化。化学農薬のないウイルス病の予防技術である。

- ・CMV及びWMV弱毒株濃縮汁液を接種したワクチン苗を商品化。

※予め弱毒株を接種した苗は同種又は近縁のウイルスに感染しなくなる。この干渉効果という現象が、ヒトや動物の免疫と似ている（干渉効果を起こす弱毒株を植物ワクチンと呼ぶ）。

- ・生産環境での残留性なし（CMV弱毒株：虫媒伝染性なし、WMV弱毒株：僅かに虫媒性）。
- ・2種混合苗に既存の「ZYMVワクチン（ズッキーニ黄斑モザイクウイルス）」を加えた3種混合苗を作成することも可能。

効果

◎モザイク病の高い抑制効果を確認（右図）

ウイルス病の流行地域で抑制効果が得られるが、感染圧が非常に高い場合（栽培周辺でのウイルス病の激発など）、まれに防除価が下がる場合がある。（図中の平成28年長野県の例）

◎化学農薬に依存しない防除

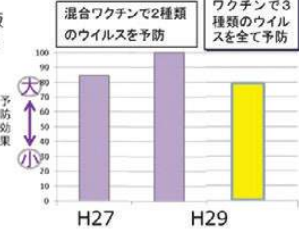
減農薬栽培による安全で安心感のある農産物の国民への提供に貢献。

※H27年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業により実施された



CMV及びWMV弱毒株濃縮汁液を接種したワクチン苗を商品化。

25倍希釈液を苗に接種する



キュウリモザイク病抑制効果

導入の留意点

・CMV及びWMV以外のウイルス病には効果が無い

地域で発生するウイルス優占種を把握の上、CMVもしくはWMVが主な発生種の場合に利用が可能。

なお、ZYMVについては既存のワクチン製剤等が利用可能。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯
販売中 220円～280円／本（ベルグアース株式会社）
- 改良・普及の状況
全国で約40万本の接種苗（京都府4千本）
- 適応地域
全国で利用可能



関連情報

平成29年度農林水産試験研究の主な成果
（京都府農林水産技術センター）



ブロッコリーとの輪作によるナス半身萎凋病の発病抑制

問い合わせ先：群馬県農業技術センター
TEL:0270-62-1021 e-mail:nogisen@pref.gunma.lg.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

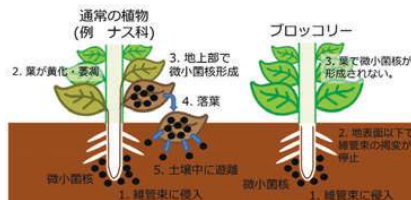
有機農業

生産 品目：ナス

技術の概要

全国的なナス栽培において、土壌伝染性の半身萎凋病の発生による被害が問題となっている。

ナスの前作にブロッコリーを作付け（栽培・収穫後・残さすきこみ）することによって、ナス半身萎凋病を抑制することができる。ブロッコリーがナス半身萎凋病の病原菌のおとり作物として作用するため、ブロッコリーの栽培中に病原菌密度を減らすことができる。



効果

◎ブロッコリーとの輪作で発病が約50%抑制

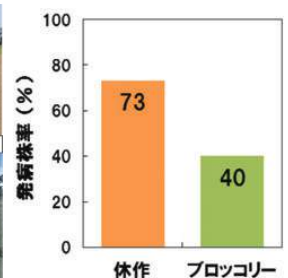
ナスの前作にブロッコリーを作付けると、何も作付けなかった場合に比べて、発病が約50%抑制できる。

◎ブロッコリーの栽培中に病原菌密度低下

土壌中のナス半身萎凋病菌は、ブロッコリーの栽培中に減少していく。

◎ブロッコリーも収穫して出荷が可能

ナス半身萎凋病菌は、ブロッコリーに感染するが、地上部に症状が現れないため、収穫・出荷が可能である。



ブロッコリーとナスの輪作とナス半身萎凋病の抑制効果

導入の留意点

・発病株割合が30%程度の圃場に導入

発病率の高い圃場では効果が劣る。抵抗性台木と併用し、罹病葉は圃場に放置しないように努める。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 普及の状況
・ナス産地で広く導入されている。
- 適応地域
・全国のナス栽培地域での導入が可能である。

関連情報

「前作としてブロッコリーを作付けすることによるナス半身萎凋病の発病抑制」
最新農業技術・品種2015 農林水産省



土着天敵と天敵温存植物を利用した 露地ナスの減農薬栽培技術

温室効果ガス

農薬

肥料

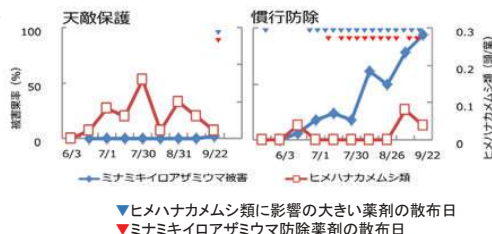
有機農業

生産 品目：ナス

技術の概要

露地ナスでは、殺虫剤に対して複合抵抗性を発達させたミナミキイロアザミウマが発生し、殺虫剤散布を中心とした防除体系では被害を抑制するのが困難である。

そこで、土着天敵ヒメハナカメムシ類を利用するために、選択性殺虫剤を中心とした防除体系に切り替えるとともに、天敵温存植物フレンチマリーゴールドをほ場の側面等に植栽することで、ミナミキイロアザミウマに対する薬剤防除がほぼ不要となり、殺虫剤の使用回数をほぼ半減できる。



効果

◎ミナミキイロアザミウマによる果実被害を抑制

薬剤防除が困難だったミナミキイロアザミウマの被害を抑制できる。

◎露地ナスの殺虫剤使用回数がほぼ半減

ミナミキイロアザミウマの薬剤防除がほぼ不要になることから、殺虫剤使用回数全体が大幅に削減される。

●天敵温存植物フレンチマリーゴールド

フレンチマリーゴールドは、近畿以北では6月から10月まで開花が続き、この間ナスを加害しないコスモアザミウマが発生し、ヒメハナカメムシ類を維持するバンカーとなる。また、ナス害虫の温床とならない。植栽場所、播種量等はマニュアルを参照のこと。



導入の留意点

・害虫カメムシ類の発生に注意が必要

ツマグロアオカスミカメやミナミアオカメムシなどの害虫を防除できる選択性殺虫剤がないので、これらの薬剤防除を行う場合には、ヒメハナカメムシ類がほ場に戻るまでの間、ミナミキイロアザミウマの薬剤防除が必要となる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●改良・普及の状況

奈良県内での普及面積はおおむね7ha程度、このほか他県でも類似の取り組みあり。

●適応地域

近畿以北

関連情報

・奈良県における土着天敵を活用した露地ナスの減農薬栽培技術マニュアル
(奈良県農業研究開発センター（令和元年）)



問い合わせ先：岡山県農林水産総合センター農業研究所
TEL:086-955-0543

2 種の天敵を組み合わせた 促成栽培ナスのアザミウマ類防除対策技術

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ナス

技術の概要

岡山県南部の促成栽培ナス産地では、難防除害虫ミナミキイロアザミウマの薬剤感受性低下により、化学合成農薬による防除が非常に困難な状況となっていた。この問題を解決するため、研究機関で得たデータを基に普及指導センター及びJAが中心となり、実証圃を核に生産者への天敵利用技術の導入を図った。

本技術は、育苗期における紫外線カットフィルム及び天敵の利用に加え、2種の天敵放飼と天敵に影響が小さい農薬を組み合わせることにより、ミナミキイロアザミウマの効率的な防除が可能となる。

効果

◎天敵の導入による秀品率の回復

秀品率が以前のレベルまで回復（約8%向上）し、所得の増加が図られた。

◎農薬散布回数及び防除コストの削減

実証圃の結果では、化学合成農薬の散布回数が約60%（殺虫剤約75%）削減できた。これにより薬剤散布労力の軽減（散布時間で約30%の減）と防除コストの削減（約4万円/10a）が実現できた。

●導入した2種の天敵

天敵タバコカスミカメ（土着個体を増殖）とスワルスキーカブリダニ（購入）をハウス内に放飼することで、害虫ミナミキイロアザミウマを防除し、品質の高いナスの生産が可能となる。



導入の留意点

・天敵導入により顕在化した病害対策

薬剤散布回数の削減に伴い、防除圧が低下したことにより顕在化したうどんこ病などの対策を行う必要がある。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況（岡山県）

現在、本技術（1種のみ導入者含む）の県南部の促成栽培ナス産地全体での導入割合は2020年度時点で約9.9%（2009年度比—3.3倍）となっており、現地への普及定着が図られている。

●適応地域 岡山県南部の促成栽培ナス産地等

関連情報

岡山県農林水産総合センター農業研究所
平成26年度試験研究主要成果



捕食性天敵タバコカスミカメをナスの周年栽培体系で利用する技術「ゴマまわし」

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ナス

技術の概要

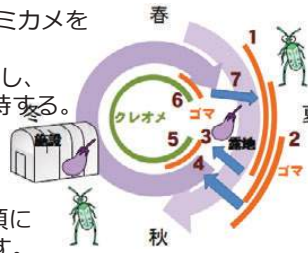
ナスの周年栽培体系に捕食性天敵タバコカスミカメ（以下、カスミカメ）の好むゴマやクレオメを植栽し、カスミカメを温存・増殖させ、働きを強化することにより、ミナミキイロアザミウマ等の防除に使用する化学農薬を削減することができる。

○露地栽培

- 1 5月上中旬頃にゴマを畝の端等に植栽し、カスミカメを増殖する。ゴマの播種、植付けは、1か月ごとに実施する。
- 2 ゴマで増えたカスミカメは、自然にナスへ移動する。

○促成（施設）栽培

- 3 ナス定植前（8月頃）にゴマを施設内の空きスペースに植栽し、カスミカメを放す。
- 4 9月頃に露地のゴマからカスミカメを採集し、施設内のナスに放す。
- 5 9月～10月にクレオメを植栽し、冬期にカスミカメを温存・維持する。
- 6 春季、クレオメとゴマ双方でカスミカメが増殖する。
- 7 6月頃に露地のゴマに、7月頃に露地のナスにカスミカメを放す。



効果

◎被害の防止

◎殺虫剤の散布回数を削減可能

実践圃場では、カスミカメの働きによって、ミナミキイロアザミウマ等の発生を周年にわたって低く抑制し、化学農薬を削減することができる。

●捕食性天敵タバコカスミカメ

タバコカスミカメは西日本に土着する小型のカメムシの一種で、薬剤抵抗性の発達が確認されている微小害虫アザミウマ類、コナジラミ類を捕食する有力な天敵昆虫である。



タバコカスミカメ成虫

導入の留意点

・ゴマは日射を好み夏の高温期に発育が良好

ゴマは温度や日射量が足りないと生育できないので、露地栽培では春季（3月～4月）の播種、定植を避け、促成栽培では冬季にゴマを植栽しない。

・カスミカメの効果が期待できない害虫の防除

アブラムシ類やチャノホコリダニに対しては、カスミカメに影響の少ない薬剤や天敵資材を用いて防除する。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

- 価格帯 初期費用：無料～約3,000円（ゴマ等の種子代及び育苗資材代）
- 普及の状況 徳島県内のナス産地
- 適応地域 西南暖地

関連情報

- ・タバコカスミカメ利用マニュアル（徳島県立農林水産総合技術支援センター（平成30年））



土壌病害抵抗性トウガラシ類台木用品種「台パワーZ」、 「L4台パワー」、 「台ちから」

問い合わせ先：農研機構本部

TEL:029-838-8988 e-mail:naroMeaDRI@ml.affrc.go.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ピーマン・トウガラシ類

技術の概要

我が国のピーマン栽培では、青枯病、疫病、ネコブセンチュウなどの土壌病害虫が大きな問題になっている。これら土壌病害虫に対して、抵抗性台木への接ぎ木栽培により高い防除効果が期待される。

「台パワーZ」、「L4台パワー」および「台ちから」は、農研機構で開発したピーマン・トウガラシ類の接ぎ木栽培に適した、土壌病害虫抵抗性台木用F₁品種である。

これら3品種は、いずれも、青枯病、疫病およびネコブセンチュウに強度抵抗性を有し、これら品種を利用した接ぎ木栽培は、土壌病害虫に対して高い防除効果を発揮する。

効果

◎青枯病、疫病、ネコブセンチュウの被害を軽減

これら品種を台木とした接ぎ木栽培により、青枯病、疫病、ネコブセンチュウの被害を大きく軽減させることが期待できます。

◎安定した収益性

病害虫発生圃場でも萎凋・枯死株が少なく、安定した収量・収益を得ることが期待できます。

種子販売

- 「台パワーZ」：丸種（株）
- 「L4台パワー」：福井シード（株）、丸種（株）
- 「台ちから」：福井シード（株）、丸種（株）

疫病激発圃場での接ぎ木苗の効果



導入の留意点

- ・ピーマン類の接ぎ木では穂木と台木のトバモウイルス抵抗性遺伝子（L³など）を揃える（下表参照）
穂木と台木の抵抗性遺伝子が異なると枯死する場合がある。

品種名	トバモウイルス抵抗性遺伝子	適する穂木用品種
台パワーZ	L ³	L ³ を持つ品種 我が国の主要なピーマン品種 一部のパプリカ品種
L4台パワー	L ⁴	L ⁴ を持つ品種 一部のパプリカ品種
台ちから	なし	トバモウイルス抵抗性を持たない品種 甘長トウガラシ品種、トウガラシ在来種

関連情報

茨城県における「台パワーZ」の現地試験事例
なお、本技術は全国で適用可能である。



ピーマン・ナス・トマトの高接ぎ木による 青枯病の発病抑制技術

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ピーマン・ナス・トマト

技術の概要

ピーマン・ナス・トマトの青枯病抵抗性台木の接ぎ木を、茎部上位（約12cm）で行うことにより、発病抑制の効果を高める栽培技術。

慣行の接ぎ木位置（約3cm）に比べて青枯病の抑制効果が向上し、自根及び慣行接ぎ木と比べ青枯病が発病しにくい。



効果

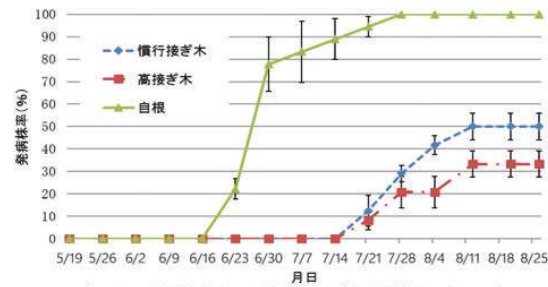
◎青枯病の発病率を半減

夏秋作型ピーマンの8月下旬時点の発病株率
慣行接ぎ木：30% 高接ぎ木：15%

◎ナス科作物の安定生産、農家所得の向上に貢献

夏秋作型ピーマンで約1,200株/10aを定植、収量の増加30%、苗代が慣行の1.2倍と仮定すると、13万円程度の増益試算

◎土壌くん蒸剤などの化学農薬の使用量減少による 環境負荷の低減



導入の留意点

- ・青枯病の抑制効果は、台木品種の抵抗性が中～強の品種を利用した場合に得ることができる

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

ナス・トマトでは慣行接ぎ木苗の1.2倍程度の価格

●普及状況

共同研究者のベルグアース(株)で年間15万株を生産販売

関連情報

最新農業技術・品種2017

「ピーマン青枯病抵抗性台木への高接ぎ木による発病抑制技術」



ドローンによるレンコン腐敗病危険度の判定 と土壌還元消毒を組み合わせた防除対策

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(資源循環)

生産 品目：レンコン

技術の概要

レンコン産地では、古くからフザリウム菌による腐敗病に悩まされてきたが、登録薬剤が無いため、前年に腐敗病が多発したほ場では被害を予想して、早掘り（9月収穫）で対応してきた。

レンコンの生育期間中は立葉の繁茂や根茎の生育により、葉の異常をほ場中に入って確認することは困難である。ドローン撮影画像を利用することで、ほ場内に立ち入らずに、腐敗病の発生を早期に診断することが可能となる。被害が予想されるほ場は早掘りなどの対策を行うとともに、地域の未利用資源である酒粕等を利用した土壌還元消毒を行い、次年度の発病を抑制する。



レンコン腐敗病 感染株の葉の症状

効果

◎収穫時期の判定に活用

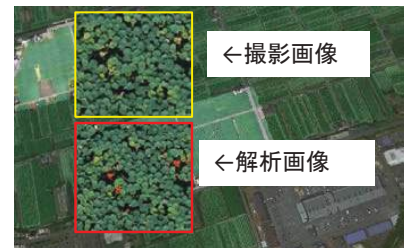
ドローンによってレンコンほ場を撮影することにより、枯死葉の発生状況を把握でき、早期収穫することによって腐敗病の被害を減少させる。

◎土壌還元消毒によって、翌年の被害を低減

収穫直後の9月に酒粕等を施用して湛水、代かきすることによって腐敗病菌の密度を低減させる。

●病害危険度の判定

ドローンで撮影したレンコンほ場の写真を画像解析して枯死葉を抽出し、ほ場毎の発生程度を明らかにすることで防除対策に活用する。



導入の留意点

- ・腐敗病の病原菌は栽培条件によって異なる
フザリウム菌によるレンコン腐敗病の被害が問題となっている、乾田化して収穫する産地を対象とする。

・土壌還元消毒は匂いに注意

湛水処理による土壌還元消毒では悪臭（ドブ臭）が発生するため、住宅地に近いほ場では注意が必要がある。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●ドローン撮影と画像解析は

(株)アグリライト研究所が実施している。

●調査にあたっては、飛行区域のほ場確認、飛行計画の策定が必要である。空港の周辺区域等では許可申請等の費用が発生する。

●令和4年度には、約140haを調査した。(株)アグリライト研究所



関連情報

- ・レンコン腐敗病の生態解明と土壌還元消毒法による防除



生産 品目：カボチャ

技術の概要

栽培の省力化に向け短節間カボチャ、「TC2A」、「くりひかり」、「ジェジェ」および「おいとけ栗たん」を育成した。これらの品種は生育初期は節間が詰まる短節間性を示し、側枝数が少ない。摘心、整枝、誘引は不要で、果実が株元近くに付きやすいため、果実が見つやすく、収穫が容易である。



株元に着果しやすいので収穫が楽。

効果

◎カボチャの定植後作業時間の2割削減

カボチャの作業のうち、整枝、誘引作業が省略でき、収穫も容易なことから作業時間の省力化が可能である。

◎株元着果性が強いので、密植による栽培が可能

カボチャはつる性のため栽培に広い面積を要するが、短節間性品種では従来品種の畝間300cm→最狭150cmまで可能で、より狭い面積でも高い収量が期待できる。

●新しい短節間カボチャ「おいとけ栗たん」



「おいとけ栗たん」は日持ち性の良いカボチャで、大果で良食味の短節間性品種。

導入の留意点

・株元近くに着果するため、日焼け果が生じやすい

株元の葉から枯れやすいため、直射日光が当たり日焼け果が出る場合は、新聞紙や粘着テープで果実の保護が可能。

・密植栽培を基本とする

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●市場価格

果実は北海道で80円～100円/kg。関東で300円/kgで推移。種子は29～39円/粒で推移。

●改良・普及の状況

北海道を中心に導入。開発品種の作付面積は約200ha（北海道96ha、本州-九州56ha、沖縄県50ha。2019年度）

●適応地域 日本全国

関連情報

最新農業技術・品種2017
「栽培の省力化に向けた短節間性カボチャ品種」



スイートコーン栽培への生分解性マルチの導入による省力効果の定量化とコスト評価

問い合わせ先：山梨県総合農業技術センター環境部
TEL:0551-28-2987 e-mail:mochizuki-akby@pref.yamanashi.lg.jp

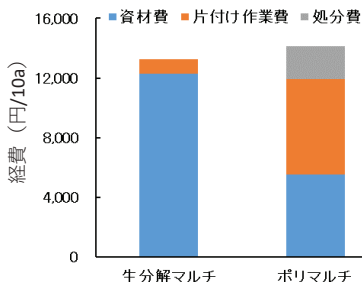
公開

生産 品目：スイートコーン

技術の概要

一部の農家では、スイートコーン栽培への生分解性マルチの導入が始まっているが、廃プラスチック対策を加速させるため、さらに利用を拡大する必要がある。

生分解性マルチが敬遠される要因の一つにポリマルチとの価格差が挙げられるが、片付け作業の省力効果を定量化し、これを人件費の圧縮効果に換算することで、マルチ利用に関するコストを総合的に評価した。その結果、生分解性マルチの利用コストはポリマルチと同等と評価された。



人件費が削減され、処分費用が不要となることで、ポリマルチとの価格差が相殺

効果

◎片付け作業における省力効果は6時間/10a

マルチの剥ぎ取りが不要になり、残渣処理に要する作業時間が圧縮されることで、5.9時間/10aの労力削減が可能。

◎マルチ利用に関するコストはポリマルチと同等

省力効果を人件費に換算すると、ポリマルチとの価格差は相殺され、経費はポリマルチ栽培と同等となる。

●スイートコーンの片付け作業における各工程の10a当たり作業時間（実測）

各工程の10a当たり作業時間（実測）



作業時間を約6時間/10a低減可能

導入の留意点

・栽培方法の違いにより数値は多少変動する

スイートコーンの栽培方法は産地ごとに異なるため、片付け作業に要する時間は多少変動することが想定される。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

生分解性マルチは、ポリマルチより2倍以上高価だが、マルチ処分費用が不要となり、省力化により人件費が圧縮されることで、経費はポリマルチと同等となる。

●改良・普及の状況

スイートコーン栽培への生分解性マルチの導入は既に始まっているが、利用をさらに拡大するための一助となる。

関連情報

山梨県総合農業技術センターホームページ
「令和4年成果情報」

